

注3

大学番号：056

[令和元年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

事前伺い

大阪教育大学大学院 連合教職実践研究科

注2

## 【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 大阪教育大学  
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 経営戦略課

職名・氏名 経営戦略係長 カシサキ サトシ 梶崎 智志

電話番号 072-978-3208

F A X 072-978-3225

e-mail kikaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

連合教職実践研究科

＜高度教職開発専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	38

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人 大阪教育大学

## (2) 大学名

大阪教育大学大学院

## (3) 調査対象大学等の位置

〒582-8582  
大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1号  
〒543-0054  
大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(クリバヤシ スミオ) 栗林 澄夫 (平成26年4月)	—	
研究科長	(クリバヤシ スミオ) 栗林 澄夫 (平成27年4月)	—	
研究科主任	(キハラ トシユキ) 木原 俊行 (平成30年4月)	—	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
連合教職実践研究科 高度教職開発専攻 （専門職課程） 教職修士（専門職）	教員養成関係	2年	150人	年次	300人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	( ) [ ]	150人	( ) [ ]	0.75倍	—								
志願者数	( ) [ ]	(134) [1]	( ) [ ]										
受験者数	( ) [ ]	(132) [1]	( ) [ ]										
合格者数	( ) [ ]	(120) [1]	( ) [ ]										
B 入学者数	( ) [ ]	(113) [1]	( ) [ ]										
入学定員超過率 B/A											0.75		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期									
1年次	[ ] ( )	113 [ 1 ]	- [ - ]										
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )									
計	[ ] ( )	113 [ 1 ] ( - )											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	113 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
合計		0 人		人	人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
  - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
  - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{113} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<連合教職実践研究科 高度教職開発専攻（教職大学院）>

### (1) ① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	教育課程編成の今日的課題	1前	2			3	1					兼1 兼1 兼4 兼5 兼2 兼2 兼1 兼9 兼25
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践	1後	2			2	1					
	学習指導の実践的展開	1前	2			3	2					
	生徒指導と教育相談の実践的課題	1前	2			2	1					
	学校経営と学級経営の理論と実践	1前	2			1	2					
	教師力と学校力	2後	2			6	3					
	教育研究方法演習	1後	2			2	1					
	学校安全と危機管理	2	2			1						
	人権教育の課題と実践	2前		2		1						
	健康教育の理解と実践	休		2				1				
	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	1前		2		1						
	社会的包摂のための諸施設に関する実践的研究	2前		2				1				
	特別ニーズ教育の理論と実践	1前		2		1						
小計(13科目)	-	16	10	0	14	6	1	0	0	0	兼25	
学校実習科目	基本学校実習Ⅰ	1前		2		28	13	2				兼83
	基本学校実習Ⅱ	1後		2		28	13	2				兼83
	基本学校実習Ⅲ(特別支援)	1前		2		1						兼8
	基本学校実習Ⅳ(特別支援)	1後		2		1						兼8
	発展課題実習Ⅰ	2前		3		28	13	2				兼83
	発展課題実習Ⅱ	2後		3		28	13	2				兼83
	発展課題実習Ⅲ(特別支援)	2前		3		1						兼8
	発展課題実習Ⅳ(特別支援)	2後		3		1						兼8
小計(8科目)	-	0	20	0	29	13	2	0	0	0	兼91	
スクーリーリーダーシップコース科目	スクーリーリーダーシップの理論と実践	1前		2		1						兼1 兼1
	エビデンスベースの学校改革	2前		2		1	1					
	スクーリーリーダーのマネジメント	1前		2		2						
	学校組織開発	1後		2		1						
	チーム学校の実践的展開	2前		2		1						
	学校におけるコーディネーション	1前		2		2						
	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	1後		2		1						
	校内研修の持続的発展	2前		2		2						
	学校に対するコンサルテーション	2後		2		1						
	行政研修の体系と実践	1後		2		1						
	学校支援のための施策展開	2前		2		1						
	グローバル時代の教師	1前		2		2						
	グローバルリテラシーの育成	1後		2		1						
	グローバルプログラムの開発	2前		2		1						
	授業におけるICT活用の理論と実践	1前		2		1						
	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	2前		2		1						
	メディア・情報教育の企画・運営	2後		2		1						
小計(17科目)	-	0	34	0	8	2	0	0	0	0		
援助ニーズ教育実践コース科目	協働的援助の理論と実践	1前		2		1						兼2 兼2 兼2 兼1 兼1 兼2 兼2 兼1 兼1 兼2 兼2 兼2 兼2
	社会環境と子どもの心身の理解	1後		2		1						
	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	1前		2		1						
	いじめ・不登校・問題行動を伴う子どもの援助ニーズ	1後		2		1						
	学校危機における援助ニーズ	2前		2		1						
	予防的な関わりと協働的援助	2前		2		1						
	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	1後		2		1	1					
	メンタルヘルス課題の理解	2前		2		1						
	共生社会をめざした協働的援助	2前		2		1						
	養護実践の理論と方法	1後		2		1						
	子どもの疾病・傷害と援助ニーズ	2前		2		1						
	子どもの心身の健康における予防的関わりと協働的援助	2前		2		1						
	就学前の子どもの援助のための政策・システム	1後		2		1						
	就学前の援助ニーズへの多様な支援	2前		2		1						
	就学前教育と福祉の協働	2前		2		1						
小計(15科目)	-	0	30	0	1	1	1	0	0	0	兼14	

#### 【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	教育課程編成の今日的課題	1前	2			3	1					兼2 兼3 兼1 兼5 兼5 兼2 兼2 兼2 兼7 兼25
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践	1後	2			3	1					
	学習指導の実践的展開	1前	2			2	2					
	生徒指導と教育相談の実践的課題	1前	2			2	1					
	学校経営と学級経営の理論と実践	1前	2			2	2					
	教師力と学校力	2後	2			6	3					
	教育研究方法演習	1後	2			1	1					
	学校安全と危機管理	2	2			1						
	人権教育の課題と実践	2前		2		1						
	健康教育の理解と実践	休		2				1				
	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	1前		2		1						
	社会的包摂のための諸施設に関する実践的研究	2前		2				1				
	特別ニーズ教育の理論と実践	1前		2		2		1				
小計(13科目)	-	16	10	0	21	7	1	0	0	0	兼25	
学校実習科目	基本学校実習Ⅰ	1前		2		34	14	3				兼96
	基本学校実習Ⅱ	1後		2		34	14	3				兼96
	基本学校実習Ⅲ(特別支援)	1前		2		2	1	1				兼6
	基本学校実習Ⅳ(特別支援)	1後		2		2	1	1				兼6
	発展課題実習Ⅰ	2前		3		34	14	3				兼96
	発展課題実習Ⅱ	2後		3		34	14	3				兼96
	発展課題実習Ⅲ(特別支援)	2前		3		2	1	1				兼6
	発展課題実習Ⅳ(特別支援)	2後		3		2	1	1				兼6
小計(8科目)	-	0	20	0	36	15	4	0	0	0	兼102	
スクーリーリーダーシップコース科目	スクーリーリーダーシップの理論と実践	1前		2		2		1				兼1 兼1
	エビデンスベースの学校改革	休		2		1	1					
	スクーリーリーダーのマネジメント	1前		2		2		2				
	学校組織開発	休		2		0		2				
	チーム学校の実践的展開	2前		2		1		1				
	学校におけるコーディネーション	1前		2		2		2				
	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開	1後		2		1		1				
	校内研修の持続的発展	2前		2		2		1				
	学校に対するコンサルテーション	1前		2		2		2				
	行政研修の体系と実践	1後		2		1		1				
	学校支援のための施策展開	2前		2		1		1				
	グローバル時代の教師	1後		2		2		2				
	グローバルリテラシーの育成	1後		2		1		1				
	グローバルプログラムの開発	2前		2		2		1				
	授業におけるICT活用の理論と実践	休		2		1		1	1			
	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開	1後		2		1		1	1			
	メディア・情報教育の企画・運営	2前		2		1		1				
小計(17科目)	-	0	34	0	8	1	1	0	0	0	兼2	
援助ニーズ教育実践コース科目	協働的援助の理論と実践	1前		2		3		1				兼2 兼2 兼2 兼1 兼2 兼1 兼2 兼2 兼1 兼2 兼2 兼2 兼2
	社会環境と子どもの心身の理解	1後		2		1		1				
	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	1前		2		1		1				
	いじめ・不登校・問題行動を伴う子どもの援助ニーズ	休		2		1		1				
	学校危機における援助ニーズ	2前		2		1		1				
	予防的な関わりと協働的援助	1後		2		2		1				
	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	2前		2		1	1	0				
	メンタルヘルス課題の理解	1後		2		2		1				
	共生社会をめざした協働的援助	2前		2		1		1				
	養護実践の理論と方法	1後		2		1		1				
	子どもの疾病・傷害と援助ニーズ	2前		2		1		1				
	子どもの心身の健康における予防的関わりと協働的援助	2前		2		1		1				
	就学前の子どもの援助のための政策・システム	1後		2		1		1				
	就学前の援助ニーズへの多様な支援	2前		2		1		1				
	就学前教育と福祉の協働	2前		2		1		1				
小計(15科目)	-	0	30	0	3	1	1	0	0	0	兼14	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
天王寺キャンパス開講教科関係科目	学習開発研究(国語)	1・2	2								兼1
	学習開発研究(算数)	1・2	2								兼1
	学習開発研究(音楽)	1・2	2								兼1
	学習開発研究(図画工作)	1・2	2								兼1
	学習開発研究(体育)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(国語)	1・2	2			1					兼1
	学習開発研究演習(英語)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(算数)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(音楽)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(図画工作)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(体育)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(英語)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(社会)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(理科Ⅰ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(理科Ⅱ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(理科Ⅲ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(音楽)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(英語)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(社会)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(理科Ⅰ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(理科Ⅱ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(理科Ⅲ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(音楽)	1・2	2								兼1
小計(23科目)	-	0	46	0	1	0	0	0	0	0	兼11
教育実践の研究方法	協働的プロジェクト演習	2前	1			11	4				
	カリキュラム・マネジメントの展開	2後	1			7	3				
	Eラーニング	1後	2								兼1
	国際教育比較実践交流	2前	2								兼1
	総合的学習の開発と実践	2後	2								兼1
	カリキュラムデザイン演習(言語と文化)A	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(言語と文化)B	1後	2				1				
	カリキュラムデザイン演習(個人と社会)A	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(個人と社会)B	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(科学と数学)A	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(科学と数学)B	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(科学と数学)C	1後	2				1				
	カリキュラムデザイン演習(身体と表現)A	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(身体と表現)B-a	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(身体と表現)B-b	1後	2								兼1
	カリキュラムデザイン演習(身体と表現)C	1後	2				1				
	授業研究演習(言語と文化)A[国語]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(言語と文化)B[英語]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(個人と社会)A[家庭科]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(個人と社会)B[社会a]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(個人と社会)B[社会b]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(個人と社会)C[道徳]	1後・2前	2								兼2
	授業研究演習(科学と数学)A[理科]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(科学と数学)B[技術]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(科学と数学)C[算数・数学]	1後・2前	2			1					兼1
	授業研究演習(身体と表現)A[音楽]	1後・2前	2			1					兼0
	授業研究演習(身体と表現)B[図画工作・美術]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(身体と表現)B[書道]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(身体と表現)C[体育・保健体育]	1後・2前	2								兼1
	教材・題材開発研究(言語と文化)A[音声言語表現]	1・2	1								兼1
	教材・題材開発研究(言語と文化)A[文字言語表現]	1・2	1								兼1
	教材・題材開発研究(言語と文化)A[古典文学]	1・2	1								兼1
	教材・題材開発研究(言語と文化)A[児童文学]	1・2	1			1					兼1
教材・題材開発研究(言語と文化)B[英語教育のICT]	1・2	1						1		兼1	
教材・題材開発研究(言語と文化)B[英作文]	1・2	1								兼1	
教材・題材開発研究(言語と文化)B[小中学校英語]	1・2	1				1				兼1	
教材・題材開発研究(言語と文化)B[外国語学習]	1・2	1				1				兼1	
教材・題材開発研究(個人と社会)A[食育]	1・2	1								兼1	
教材・題材開発研究(個人と社会)A[食と健康]	1・2	1								兼1	
教材・題材開発研究(個人と社会)A[家庭と保育]	1・2	1								兼1	
教材・題材開発研究(個人と社会)A[職業と生活]	1・2	1								兼1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
天王寺キャンパス開講教科関係科目	学習開発研究(国語)	1・2	2								兼1
	学習開発研究(算数)	1・2	2								兼1
	学習開発研究(音楽)	1・2	2								兼1
	学習開発研究(図画工作)	1・2	2								兼1
	学習開発研究(体育)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(国語)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(英語)	1・2	2			1					兼1
	学習開発研究演習(算数)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(音楽)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(図画工作)	1・2	2								兼1
	学習開発研究演習(体育)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(英語)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(社会)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(理科Ⅰ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(理科Ⅱ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(理科Ⅲ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究(音楽)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(英語)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(社会)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(理科Ⅰ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(理科Ⅱ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(理科Ⅲ)	1・2	2								兼1
	教科内容開発研究演習(音楽)	1・2	2								兼1
小計(23科目)	-	0	46	0	1	0	0	0	0	0	兼11
教育実践の研究方法	協働的プロジェクト演習	2前	1			11	4				
	カリキュラム・マネジメントの展開	2後	1			7	3				
	Eラーニング	1後	2								兼1
	国際教育比較実践交流	2前	2								兼1
	総合的学習の開発と実践	2後	2								兼1
	カリキュラムデザイン演習(言語と文化)A	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(言語と文化)B	1後	2				1				
	カリキュラムデザイン演習(個人と社会)A	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(個人と社会)B	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(科学と数学)A	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(科学と数学)B	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(科学と数学)C	1後	2				1				
	カリキュラムデザイン演習(身体と表現)A	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(身体と表現)B-a	1後	2			1					
	カリキュラムデザイン演習(身体と表現)B-b	1後	2								兼1
	カリキュラムデザイン演習(身体と表現)C	1後	2				1				
	授業研究演習(言語と文化)A[国語]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(言語と文化)B[英語]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(個人と社会)A[家庭科]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(個人と社会)B[社会a]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(個人と社会)B[社会b]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(個人と社会)C[道徳]	1後・2前	2								兼2
	授業研究演習(科学と数学)A[理科]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(科学と数学)B[技術]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(科学と数学)C[算数・数学]	1後・2前	2			1					兼1
	授業研究演習(身体と表現)A[音楽]	1後・2前	2			1					兼0
	授業研究演習(身体と表現)B[図画工作・美術]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(身体と表現)B[書道]	1後・2前	2								兼1
	授業研究演習(身体と表現)C[体育・保健体育]	1後・2前	2								兼1
	教材・題材開発研究(言語と文化)A[音声言語表現]	1・2	1								兼1
	教材・題材開発研究(言語と文化)A[文字言語表現]	1・2	1								兼1
	教材・題材開発研究(言語と文化)A[古典文学]	1・2	1								兼1
	教材・題材開発研究(言語と文化)A[児童文学]	1・2	1			1					兼1
教材・題材開発研究(言語と文化)B[英語教育のICT]	1・2	1						1		兼1	
教材・題材開発研究(言語と文化)B[英作文]	1・2	1								兼1	
教材・題材開発研究(言語と文化)B[小中学校英語]	1・2	1				1				兼1	
教材・題材開発研究(言語と文化)B[外国語学習]	1・2	1				1				兼1	
教材・題材開発研究(個人と社会)A[食育]	1・2	1								兼1	
教材・題材開発研究(個人と社会)A[食と健康]	1・2	1								兼1	
教材・題材開発研究(個人と社会)A[家庭と保育]	1・2	1								兼1	
教材・題材開発研究(個人と社会)A[職業と生活]	1・2	1								兼1	



【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
特別支援教育コース科目	インクルーシブ教育の理論と実際	1前		2							兼3
	特別支援教育コーディネーター論	1後		2							兼1
	特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援	1前		2		1					兼3
	特別なニーズのある子どもの生理と病理	1後		2							兼1
	特別なニーズのある子どもの臨床	2後		2							兼1
	発達障がいのある子どもの理解と支援	2前		2							兼1
	特別支援教育の現代的課題	1前		2		1					兼9
	発達支援教育実践論	1後		2							兼1
	特別支援教育の教育課程と授業論	1前		2							兼4
	教育相談支援の理論と実際	1後		2		1					
小計(10科目)	-	0	20	0	1	0	0	0	0	兼9	
課題研究科目	実践課題研究Ⅰ	2前	2			29	13	2	0	0	兼91
	実践課題研究Ⅱ	2後	2			29	13	2	0	0	兼91
	小計(2科目)	-	4	0	0	29	13	2	0	0	兼91
合計(192科目)	-	20	273	19	29	13	2	0	0	兼109	
卒業要件及び履修方法											
研究共通科目から18単位、学校実習科目10単位、コース科目・自由選択科目から14単位、課題研究科目4単位を修得し、46単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：36単位(年間))											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
特別支援教育コース科目	インクルーシブ教育の理論と実際	1前		2							兼3
	特別支援教育コーディネーター論	1後		2							兼1
	特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援	1前		2			2	1			兼1
	特別なニーズのある子どもの生理と病理	1後		2							兼1
	特別なニーズのある子どもの臨床	2後		2				1			兼0
	発達障がいのある子どもの理解と支援	2前		2							兼1
	特別支援教育の現代的課題	1前		2			2	1			兼7
	発達支援教育実践論	2後		2			1				兼0
	特別支援教育の教育課程と授業論	1前		2							兼4
	教育相談支援の理論と実際	2後		2			1				
小計(10科目)	-	0	20	0	2	1	0	0	0	兼9	
課題研究科目	実践課題研究Ⅰ	2前	2			36	15	4	0	0	兼102
	実践課題研究Ⅱ	2後	2			36	15	4	0	0	兼102
	小計(2科目)	-	4	0	0	36	15	4	0	0	兼102
合計(193科目)	-	20	274	19	36	15	4	0	0	兼122	
卒業要件及び履修方法											
研究共通科目から18単位、学校実習科目10単位、コース科目・自由選択科目から14単位、課題研究科目4単位を修得し、46単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：36単位(年間))											

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割編成の都合により、「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」の教員配置を「教授2・准教授1」から「教授3・准教授1」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「学習指導の実践的展開」の教員配置を「教授3・准教授2・兼任1」から「教授2・准教授2・兼任2」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「生徒指導と教育相談の実践的課題」の教員配置を「教授2・准教授1・兼任1」から「教授2・准教授1・兼任3」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「学校経営と学級経営の理論と実践」の教員配置を「教授1・准教授2」から「教授2・准教授2・兼任1」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「教育研究方法演習」の教員配置を「教授2・准教授1・兼任4」から「教授1・准教授1・兼任5」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践」の教員配置を「教授1・兼任1」から「教授1・兼任2」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「特別ニーズ教育の理論と実践」の教員配置を「教授1・兼任9」から「教授2・准教授1・兼任7」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「エビデンスベースの学校改革」の配当年次を「2前」から「休」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「スクールリーダーのマネジメント」の教員配置を「教授2」から「教授2・兼任1」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「学校組織開発」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「学校組織開発」の配当年次を「1後」から「休」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「グローバル時代の教師」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「授業におけるICT活用の理論と実際」の配当年次を「1前」から「休」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「授業におけるICT活用の理論と実際」の教員配置を「准教授1」から「准教授1・講師1」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「メディア・情報リテラシー教育の実践的展開」の教員配置を「准教授1」から「准教授1・講師1」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「協働的援助の理論と実践」の教員配置を「教授1」から「教授3」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ」の教員配置を「兼任2」から「教授1・兼任2」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ」の配当年次を「1後」から「休」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「予防的な関わりと協働的援助」の配当年次を「2前」から「1後」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ」の教員配置を「准教授1・講師1・兼任1」から「教授1・准教授1・兼任2」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「授業研究演習（個人と社会）A〔家庭科〕」の教員配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「授業研究演習（身体と表現）A〔音楽〕」の教員配置を「教授1・兼任1」から「教授1」に変更。</li> <li>・コース専門科目を拡充するため、「教材・題材開発研究（個人と社会）B〔歴史b〕」を新設。それに伴い、「教材・題材開発研究（個人と社会）B〔歴史〕」を「教材・題材開発研究（個人と社会）B〔歴史a〕」に名称変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「発達支援教育実践論」の配当年次を「1後」から「2後」に変更。</li> <li>・時間割編成の都合により、「教育相談支援の理論と実際」の配当年次を「1後」から「2後」に変更。</li> <li>・特別支援教育コースの兼任教員の専任教員への配置換えにより、コース科目の教員配置を変更。</li> <li>・教員配置の変更により、学校実習科目及び課題研究科目の教員配置数を変更。</li> </ul>
---

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
10 科目	163 科目	19 科目	192 科目	10 科目	164 科目	19 科目	193 科目	
				[ ]	[ 1 ]	[ ]	[ 1 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{192} = \boxed{\phantom{00}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用面積：2,409㎡ 借用期間：1年（毎年更新）		
	校舎敷地	229,161㎡	0㎡	0㎡	229,161㎡			
	運動場用地	107,723㎡	0㎡	0㎡	107,723㎡			
	小 計	336,884㎡	0㎡	0㎡	336,884㎡			
	そ の 他	381,206㎡	0㎡	0㎡	381,206㎡			
	合 計	718,090㎡	0㎡	0㎡	718,090㎡			
(2) 校 舎	専 用	78,472㎡	0㎡	0㎡	78,472㎡	大学全体		
	(78,472㎡)	( 0㎡)	( 0㎡)	(78,472㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	118室	演 習 室 46室	実験実習室 111室	情報処理学習施設 9室 (補助職員 人)	語学学習施設 4室 (補助職員 人)	大学全体	
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		専任教員数増に伴う整備のため(元)		
	連合教職実践研究科 高度教職開発専攻			49室41室(共同利用3室含む)				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を含めた数値に修正した。電子ジャーナルは契約削減によりタイトル数が減少した。(元) 大学全体での共用分 図書—766,000—(126,150)— 電子ブック—14,914— (13,828)— 学術雑誌—18,000—(3,064)— 電子ジャーナル 左記記載数値が大学全体の総数 視聴覚資料—10,640
		連合教職実践研究科 高度教職開発専攻	2,079 [751]	5,504 [5,503]	6,980	0	0	
	計	175,700 [50,900] 923,374 [188,601] -(171,900 [50,300]) (910,792 [187,539])	2,079 [751] 18,700 [3,425] -(2,079 [751]) (18,700 [3,425])	5,504 [5,503] 4,005 [4,004] 5,504 [5,503] (4,005 [4,004])	6,980 19,787 (-6,660) (19,278)	0 (0)	0 (0)	
		175,700 [50,900] 923,374 [188,601] -(171,900 [50,300]) (910,792 [187,539])	2,079 [751] 18,700 [3,425] -(2,079 [751]) (18,700 [3,425])	5,504 [5,503] 4,005 [4,004] 5,504 [5,503] (4,005 [4,004])	6,980 19,787 (-6,660) (19,278)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 計算方法変更のため(元)	
	8,335㎡		855		1,500,772 1,500,700			
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
	7,629㎡		野球場		テニスコート (オムニ8面、クレー7面)			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
  - 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
  - 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
大阪教育大学										
教育学部									大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1号 (※の課程及び専攻) 大阪市天王寺区南河堀町4番88号	
初等教育教員養成課程	4	60	-	240	学士 (教育)	1.01	-	平成29年	※3年次より	
初等教育教員養成課程(夜間)	5	40	50	275	学士 (教育)	1.02	-	平成29年	※	
学校教育教員養成課程	4	395	-	1580	学士 (教育)	1.03	-	平成22年		
養護教諭養成課程	4	30	-	120	学士 (教育)	0.98	-	昭和51年		
教育協働学科	4	405	-	1400	学士 (教育)	1.00	-	平成29年		
幼稚園教員養成課程	4	-	-	-	学士 (教育)	-	-	昭和42年		平成29年度より学生募集停止
特別支援教育教員養成課程	4	-	-	-	学士 (教育)	-	-	昭和63年		平成29年度より学生募集停止
小学校教員養成5年課程	5	-	-	-	学士 (教育)	-	-	昭和48年	※	平成29年度より学生募集停止 三次次編入は平成31年度より学生募集停止
教養学科	4	-	-	-	学士 (教養)	-	-	昭和63年		平成29年度より学生募集停止
大阪教育大学大学院										
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
教育学研究科										
学校教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和43年		令和元年度より学生募集停止
国語教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和43年		令和元年度より学生募集停止
社会科教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和43年		令和元年度より学生募集停止
数学教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和43年		令和元年度より学生募集停止
理科教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和43年		令和元年度より学生募集停止
英語教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和43年		令和元年度より学生募集停止
家政教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和49年		令和元年度より学生募集停止
音楽教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和50年		令和元年度より学生募集停止
美術教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和50年		令和元年度より学生募集停止
保健体育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和50年		令和元年度より学生募集停止
特別支援教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	昭和51年		令和元年度より学生募集停止
技術教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	平成5年		令和元年度より学生募集停止
養護教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	平成14年		令和元年度より学生募集停止
実践学校教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育)	-	-	平成8年	※	令和元年度より学生募集停止
健康科学専攻	2	21	-	42	修士 (学術)	1.11	-	平成5年	※	
総合基礎科学専攻	2	16	-	32	修士 (学術)	0.77	-	平成5年		
国際文化専攻	2	12	-	24	修士 (学術)	0.66	-	平成6年		
芸術文化専攻	2	12	-	24	修士 (芸術)	1.08	-	平成7年		
連合教職実践研究科										
高度教職開発専攻	2	150	-	300	教職修士	0.75	-	令和元年	※柏原及び天王寺	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
(専攻科及び別科を除く)。  
・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。  
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<連合教職実践研究科 高度教職開発専攻(教職大学院)>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	研究科主任/教授	本原 俊行 <平成27年4月> 博士(教育学)	教育課程の今日的課題 教師力と学校力 エビデンスベースの学校改革 学校に対するコンサルテーション 行政研修の体系化 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	専	研究科主任/教授	本原 俊行 <平成27年4月> 博士(教育学)	教育課程の今日的課題 教師力と学校力 エビデンスベースの学校改革 学校に対するコンサルテーション 行政研修の体系化 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	家近 早苗 <平成27年4月> 博士(カウンセリング科学)	生徒指導と教育相談の実践的課題 教師力と学校力 学校におけるコーディネーション 子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	専	教授	家近 早苗 <平成27年4月> 博士(カウンセリング科学)	生徒指導と教育相談の実践的課題 教師力と学校力 学校におけるコーディネーション 子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	柏木 賀津子 <平成27年4月> 修士(教育学)	学習指導の実践的展開 グローバル時代の教師 グローバルリテラシーの育成 学習開発研究演習(英語) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	専	教授	柏木 賀津子 <平成27年4月> 修士(教育学)	学習指導の実践的展開 グローバル時代の教師 グローバルリテラシーの育成 学習開発研究演習(英語) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	田村 知子 <平成30年4月> 博士(教育学)	カリキュラム・マネジメントの理論と実践 スクールリーダーシップの理論と実践 スクールリーダーのマネジメント チーム学校の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	専	教授	田村 知子 <平成30年4月> 博士(教育学)	カリキュラム・マネジメントの理論と実践 スクールリーダーシップの理論と実践 スクールリーダーのマネジメント <b>チーム学校の実践的展開</b> 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	水野 治久 <平成31年4月> 博士(心理学)	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践 協働的援助の理論と実践 予防的な関わりと協働的援助 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	専	教授	水野 治久 <平成31年4月> 博士(心理学)	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践 協働的援助の理論と実践 予防的な関わりと協働的援助 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	准教授	寺嶋 浩介 <平成27年4月> 博士(情報学)	学習指導の実践的展開 教育研究方法演習 授業におけるICT活用の理論と実践 メディア・情報リテラシーの理論と実践 メディア・情報教育の企画・運営 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	専	准教授	寺嶋 浩介 <平成27年4月> 博士(情報学)	学習指導の実践的展開 教育研究方法演習 授業におけるICT活用の理論と実践 <b>メディア・情報リテラシー教育の組織的展開</b> <b>メディア・情報リテラシー教育の理論と実践</b> メディア・情報教育の企画・運営 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	特任准教授	廬山 和貴 <平成29年4月> 修士(心理科学)	学校経営と学級経営の理論と実践 社会的包摂のための諸施設に関する実践的研究 エビデンスベースの学校改革 社会環境と子どもの心身の理解 ※児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ ※障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ ※共生社会をめざした協働的援助 ※基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ	専	特任准教授	廬山 和貴 <平成29年4月> 修士(心理科学)	学校経営と学級経営の理論と実践 社会的包摂のための諸施設に関する実践的研究 エビデンスベースの学校改革 社会環境と子どもの心身の理解 ※児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ ※障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ ※共生社会をめざした協働的援助 ※基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
担当授業科目名		
専	講師	平井 美幸 ＜平成31年4月＞ 修士(保健看護)
		健康教育の理解と実践 ※ 障がいや健康課題のある子ども の援助ニーズ ※ 養護実践の理論と方法 子どもの心身の健康における手 防的な関わりと協働的援助 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	土山 和久 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの 展開 カリキュラムデザイン演習(言 語と文化)A 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	成實 朋子 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(言語と文 化)A [児童文学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	水野 恵司 ＜平成31年4月＞ 博士(理学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(個人と社 会)A[防災安全] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	峯 明秀 ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの 展開 カリキュラムデザイン演習(個 人と社会)B 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	瀬尾 祐貴 ＜平成31年4月＞ 博士(理学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 授業研究演習(科学と数学)C [算数・数学] ※ 教材・題材開発研究(科学と数 学)C [応用数学] 教科内容研究(科学と数学)C [応用数学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	石川 聡子 ＜平成31年4月＞ 博士(工学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの 展開 カリキュラムデザイン演習(科 学と数学)A 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
担当授業科目名		
専	講師	平井 美幸 ＜平成31年4月＞ 博士(心理学)
		健康教育の理解と実践 ※ 障がいや健康課題のある子ども の援助ニーズ ※ 養護実践の理論と方法 子どもの心身の健康における手 防的な関わりと協働的援助 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	特任講師	飯塚 将大 ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)
		授業におけるICT活用の理論 と実践 と「ピア・サポート・情報リテラシー教育 の実践的課題」 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	土山 和久 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの 展開 カリキュラムデザイン演習(言 語と文化)A 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	成實 朋子 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(言語と文 化)A [児童文学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	水野 恵司 ＜平成31年4月＞ 博士(理学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(個人と社 会)A[防災安全] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	峯 明秀 ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの 展開 カリキュラムデザイン演習(個 人と社会)B 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	瀬尾 祐貴 ＜平成31年4月＞ 博士(理学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 授業研究演習(科学と数学)C [算数・数学] ※ 教材・題材開発研究(科学と数 学)C [応用数学] 教科内容研究(科学と数学)C [応用数学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専	教授	石川 聡子 ＜平成31年4月＞ 博士(工学)
		教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの 展開 カリキュラムデザイン演習(科 学と数学)A 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	鈴木 康文 <平成31年4月> 博士(工学)	専他	教授	鈴木 康文 <平成31年4月> 博士(工学)
		教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(科学と数学)A[物理] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(科学と数学)A[物理] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	教授	永富 一之 <平成31年4月> 博士(農学)	専他	教授	永富 一之 <平成31年4月> 博士(農学)
		教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(科学と数学)B 教材・題材開発研究(科学と数学)B[木材加工] 教材・題材開発研究(科学と数学)B[技術科] 教科内容研究(科学と数学)B[木材加工] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(科学と数学)B 教材・題材開発研究(科学と数学)B[木材加工] 教材・題材開発研究(科学と数学)B[技術科] 教科内容研究(科学と数学)B[木材加工] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	井上 功一 <平成31年4月> 修士(教育学)	専他	准教授	井上 功一 <平成31年4月> 修士(教育学)
		協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(身体と表現)C 教材・題材開発研究(身体と表現)C[球技] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(身体と表現)C 教材・題材開発研究(身体と表現)C[球技] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	教授	鈴木 真由子 <平成31年4月> 修士(教育学)	専他	教授	鈴木 真由子 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(個人と社会)A 教材・題材開発研究(個人と社会)a[消費生活と環境] ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(個人と社会)A 教材・題材開発研究(個人と社会)a[消費生活と環境] ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	教授	佐藤 賢司 <平成31年4月> 修士(教育学)	専他	教授	佐藤 賢司 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(身体と表現)B-a 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(身体と表現)B-a 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	教授	山本 利和 <平成31年4月> 博士(文学)	専他	教授	山本 利和 <平成31年4月> 博士(文学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援 ※ ※ 特別支援教育の現代的課題 ※ 教育相談支援の理論と実践 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) ※ 基本学校実習Ⅳ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅲ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅳ(特別支援) ※ 実践課題研究Ⅰ ※ 実践課題研究Ⅱ ※			特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援 ※ ※ 特別支援教育の現代的課題 ※ 教育相談支援の理論と実践 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) ※ 基本学校実習Ⅳ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅲ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅳ(特別支援) ※ 実践課題研究Ⅰ ※ 実践課題研究Ⅱ ※
専他	教授	西山 健 <平成31年4月> 修士(教育学)	専他	教授	西山 健 <平成31年4月> 修士(教育学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援 ※ ※ 特別支援教育の現代的課題 ※ 教育相談支援の理論と実践 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) ※ 基本学校実習Ⅳ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅲ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅳ(特別支援) ※ 実践課題研究Ⅰ ※ 実践課題研究Ⅱ ※			特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援 ※ ※ 特別支援教育の現代的課題 ※ 教育相談支援の理論と実践 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) ※ 基本学校実習Ⅳ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅲ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅳ(特別支援) ※ 実践課題研究Ⅰ ※ 実践課題研究Ⅱ ※

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専他	教授	
専他	准教授	日井 智美 <平成31年4月> 修士(教育学) カリキュラム・マネジメントの理論と実践 学校経営と学級経営の理論と実践 教師力と学校力 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	八田 幸恵 <平成31年4月> 修士(教育学) 教育課程編成の今日的課題 教師力と学校力 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	福田 敦志 <平成31年4月> 修士(教育学) 生徒指導と教育相談の実践的課題 教師力と学校力 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	吉田 茂孝 <平成31年4月> 修士(教育学) 学習指導の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	箱崎 雄子 <平成31年4月> 修士(言語・文化学) 教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(言語と文化)B 教材・題材開発研究(言語と文化)B〔小中学校英語〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	橋本 健一 <平成31年4月> 博士(哲学) 教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(言語と文化)B〔リスニング・リーディング〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	真野 祐輔 <平成31年4月> 博士(教育学) 教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(科学と数学)C 教科内容研究(科学と数学)C〔数学教育〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専他	准教授	平賀 健太郎 <平成31年4月> 修士(心理学) 特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援 ※ 特別なニーズのある子どもの臨床 ※ 特別支援教育の現代的課題 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) ※ 基本学校実習Ⅳ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅲ(特別支援) ※ 発展課題実習Ⅳ(特別支援) ※ 実践課題研究Ⅰ ※ 実践課題研究Ⅱ ※
専他	准教授	日井 智美 <平成31年4月> 修士(教育学) カリキュラム・マネジメントの理論と実践 学校経営と学級経営の理論と実践 教師力と学校力 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	八田 幸恵 <平成31年4月> 修士(教育学) 教育課程編成の今日的課題 教師力と学校力 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	福田 敦志 <平成31年4月> 修士(教育学) 生徒指導と教育相談の実践的課題 教師力と学校力 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	吉田 茂孝 <平成31年4月> 修士(教育学) 学習指導の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	箱崎 雄子 <平成31年4月> 修士(言語・文化学) 教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(言語と文化)B 教材・題材開発研究(言語と文化)B〔小中学校英語〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	橋本 健一 <平成31年4月> 博士(哲学) 教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 教材・題材開発研究(言語と文化)B〔リスニング・リーディング〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
専他	准教授	真野 祐輔 <平成31年4月> 博士(教育学) 教育実践の研究手法 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(科学と数学)C 教科内容研究(科学と数学)C〔数学教育〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 保有学位等 担当授業科目名
専他	特任教授	田中 龍三 <平成31年4月> 修士(教育学) 教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(身体と表現) A 授業研究演習(身体と表現) A [音楽] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	永井川 孝之 <平成30年4月> 大学 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	中西 修一 <平成27年4月> 大学 教師力と学校力 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	岡 博昭 <平成27年4月> 修士(教育学) 学習指導の実践的展開 教師力と学校力 教育研究方法演習 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	田中 満公子 <平成27年4月> 大学 学校経営と学級経営の理論と実践 グローバル時代の学校像 グローバルプログラムの開発 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	鈴木 哲郎 <平成27年4月> 大学 生徒指導と教育相談の実践的課題 学校におけるコーディネーション 校内研修の持続的発展 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	特任教授	長谷川 和弘 <平成30年4月> 大学 教育課程編成の今日的課題 教師力と学校力 学校に対するコンサルテーション 学校支援のための施策展開 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 保有学位等 担当授業科目名
専他	特任教授	田中 龍三 <平成31年4月> 修士(教育学) 教育実践の研究 協働的プロジェクト演習 カリキュラム・マネジメントの展開 カリキュラムデザイン演習(身体と表現) A 授業研究演習(身体と表現) A [音楽] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
専他	特任准教授	田中 真秀 <平成31年4月> 修士(教育学) カリキュラム・マネジメントの理論と実践 教師力と学校力 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	永井川 孝之 <平成30年4月> 大学 カリキュラム・マネジメントの理論と実践 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	中西 修一 <平成27年4月> 大学 教師力と学校力 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	岡 博昭 <平成27年4月> 修士(教育学) 学習指導の実践的展開 教師力と学校力 教育研究方法演習 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	特任教授	田中 満公子 <平成27年4月> 大学 学校経営と学級経営の理論と実践 グローバル時代の学校像 グローバルプログラムの開発 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	鈴木 哲郎 <平成27年4月> 大学 生徒指導と教育相談の実践的課題 学校におけるコーディネーション 校内研修の持続的発展 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	教授	野崎 敏一 <平成31年4月> 大学 カリキュラム・マネジメントの理論と実践 スクールリーダーのマネジメント チーム学校の実践的展開 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
実専	特任教授	長谷川 和弘 <平成30年4月> 大学 教育課程編成の今日的課題 教師力と学校力 学校に対するコンサルテーション 学校支援のための施策展開 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
実専	特任教授	岡田 和子 <平成30年4月> 大学
		教師力と学校力 教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	教授	福永 光伸 <平成29年4月> 大学
		教育課程編成の今日的課題 カリキュラム・マネジメントの 理論と実践 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	特任教授	吉川 年幸 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	特任教授	小川 隆正 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	教授	佐々木 靖 <平成29年4月> 大学
		学校安全と危機管理 スクールリーダーのマネジメント 学校組織開発 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	教授	野中 拓夫 <平成30年4月> 修士(教育学)
		学習指導の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
実専	特任教授	岡田 和子 <平成30年4月> 大学
		教師力と学校力 教育研究方法演習 社会的包摂のための種差に關する実践的探究 実践社会をめぐった協働的援助 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実専	特任教授	梅 慶子 <平成31年4月> 修士(学校教育学)
		社会的包摂のための種差に關する実践的探究 協働的援助の理論と実践 いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実専	特任教授	梅川 康治 <平成31年4月> 修士(学校教育学)
		学校経営と学級経営の理論と実践 協働的援助の理論と実践 障がいや困難課題のある子どもの援助ニーズ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実専	特任教授	薄田 和夫 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育実践の研究 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実専	特任教授	松永 尚子 <平成31年4月> 大学
		教育実践の研究 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	教授	福永 光伸 <平成29年4月> 大学
		教育課程編成の今日的課題 カリキュラム・マネジメントの 理論と実践 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	特任教授	吉川 年幸 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	特任教授	小川 隆正 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	教授	佐々木 靖 <平成29年4月> 大学
		学校安全と危機管理 スクールリーダーのマネジメント 学校組織開発 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	教授	野中 拓夫 <平成30年4月> 修士(教育学)
		学習指導の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月月> 保有学位等
担当授業科目名		
実み	准教授	井上 広文 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	准教授	廣瀬 明浩 <平成31年4月> 修士(教育学)
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	准教授	小池 美里 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	講師	田中 伸治 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	大木 愛一 <平成31年4月> 大学
		教科内容開発研究(音楽) 教科内容開発研究演習(音楽) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	田中 俊弥 <平成31年4月> 修士(教育学)
		学習開発研究(国語) 学習開発研究演習(国語) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	種村 雅子 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科内容開発研究(理科Ⅰ) 教科内容開発研究演習(理科Ⅰ) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	出野 卓也 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容開発研究(理科Ⅱ) 教科内容開発研究演習(理科Ⅱ) 教科内容研究(科学と数学)A 【動物系】 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月月> 保有学位等
担当授業科目名		
実み	准教授	井上 広文 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	准教授	廣瀬 明浩 <平成31年4月> 修士(教育学)
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	准教授	小池 美里 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	准教授	福川 理介 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	講師	田中 伸治 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
実み	講師	岩崎 弘 <平成31年4月> 修士(教育学)
		基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	大木 愛一 <平成31年4月> 大学
		教科内容開発研究(音楽) 教科内容開発研究演習(音楽) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	田中 俊弥 <平成31年4月> 修士(教育学)
		学習開発研究(国語) 学習開発研究演習(国語) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	種村 雅子 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科内容開発研究(理科Ⅰ) 教科内容開発研究演習(理科Ⅰ) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	出野 卓也 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容開発研究(理科Ⅱ) 教科内容開発研究演習(理科Ⅱ) 教科内容研究(科学と数学)A 【動物系】 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		職名
兼任	教授	戸田 有一 <平成31年4月> 修士(教育学)
		いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ ※ 就学前の援助のための政策・システム ※ 就学前の援助ニーズへの多様な支援 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	廣木 義久 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容開発研究(理科Ⅲ) 教科内容開発研究演習(理科Ⅲ) 教科内容研究(科学と数学)A【地理】 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	裴 光雄 <平成31年4月> 修士(経済学)
		教科内容開発研究(社会) 教科内容開発研究演習(社会) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	牧 郁子 <平成31年4月> 博士(人間科学)
		いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	大河内 浩人 <平成31年4月> 博士(学術)
		生徒指導と教育相談の実践的課題 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	金光 靖樹 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(個人と社会)C【道徳】 ※ 教材・題材開発研究(個人と社会)C【道徳a】 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	白井 利明 <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	瀬戸口 昌也 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	高橋 登 <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育研究方法演習 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		職名
兼任	教授	戸田 有一 <平成31年4月> 修士(教育学)
		いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ ※ 就学前の子どもの援助のための政策・システム ※ 就学前の援助ニーズへの多様な支援 ※ <b>就学前教育と福祉の協働</b> 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	廣木 義久 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容開発研究(理科Ⅲ) 教科内容開発研究演習(理科Ⅲ) 教科内容研究(科学と数学)A【地理】 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	裴 光雄 <平成31年4月> 修士(経済学)
		教科内容開発研究(社会) 教科内容開発研究演習(社会) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	牧 郁子 <平成31年4月> 博士(人間科学)
		いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	大河内 浩人 <平成31年4月> 博士(学術)
		生徒指導と教育相談の実践的課題 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	金光 靖樹 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(個人と社会)C【道徳】 ※ 教材・題材開発研究(個人と社会)C【道徳a】 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	白井 利明 <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	瀬戸口 昌也 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	高橋 登 <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育研究方法演習 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	井坂 行男 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ インクルーシブ教育の理論と実践 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	富永 光昭 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ インクルーシブ教育の理論と実践 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	西山 健 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援 ※ 特別支援教育の現代的課題 ※ 発達支援教育実践論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	井上 博文 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) A [音声言語表現] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	住田 勝 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) A [音声言語表現] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	野浪 正隆 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) A [文字言語表現] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	堀 淳一 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) A [古典文学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	加賀田 哲也 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		授業研究演習(言語と文化) B [英語] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	寺田 寛 ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) B [英文化・英作文] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	井坂 行男 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ インクルーシブ教育の理論と実践 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	富永 光昭 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ インクルーシブ教育の理論と実践 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	井上 博文 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) A [音声言語表現] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	住田 勝 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) A [音声言語表現]- 授業研究演習(言語と文化) A [英語]
兼担	教授	野浪 正隆 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) A [文字言語表現] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	堀 淳一 ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) A [古典文学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	加賀田 哲也 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		授業研究演習(言語と文化) B [英語] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼担	教授	寺田 寛 ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		教材・題材開発研究(言語と文化) B [英文化・英作文] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	吉田 晴世 <平成31年4月> 博士(学術)
		教材・題材開発研究(言語と文化)B〔英語教育とICT〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	飯島 敏文 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(個人と社会)B〔社会a〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	岩田 文昭 <平成31年4月> 博士(文学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔いのち教育〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	串田 秀也 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔社会a〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	倉本 香 <平成31年4月> 博士(哲学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔倫理〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	小林 和美 <平成31年4月> 博士(学術)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔社会b〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	手取 義宏 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(個人と社会)B〔社会b〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	松本 啓二郎 <平成31年4月> 修士(人間・環境学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔哲学〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	山田 周二 <平成31年4月> 博士(環境科学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔地理〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	吉田 晴世 <平成31年4月> 博士(学術)
		教材・題材開発研究(言語と文化)B〔英語教育とICT〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	飯島 敏文 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(個人と社会)B〔社会a〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	岩田 文昭 <平成31年4月> 博士(文学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔いのち教育〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	串田 秀也 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔社会a〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	倉本 香 <平成31年4月> 博士(哲学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔倫理〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	小林 和美 <平成31年4月> 博士(学術)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔社会b〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	手取 義宏 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(個人と社会)B〔社会b〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	松本 啓二郎 <平成31年4月> 修士(人間・環境学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔哲学〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	山田 周二 <平成31年4月> 博士(環境科学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B〔地理〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	教授	山近 博義 <平成31年4月> 修士(文学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B[地誌] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	馬場 良始 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)C[代数] 教科内容研究(科学と数学)C[代数] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	柳本 朋子 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(科学と数学)C[算数・数学] ※ 教材・題材開発研究(科学と数学)C[数学教育] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	畦 浩二 <平成31年4月> 博士(理学)
		授業研究演習(科学と数学)A[理科]
兼任	教授	川村 三志夫 <平成31年4月> 博士(農学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)A[生物] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	神鳥 和彦 <平成31年4月> 博士(工学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)A[化学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	福江 純 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)A[地学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	篠澤 一彦 <平成31年4月> 博士(情報学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)B[電気] 教材・題材開発研究(科学と数学)B[技術統合] 教科内容研究(科学と数学)B[電気] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	赤松 喜久 <平成31年4月> 修士(体育学)
		授業研究演習(身体と表現)C[体育・保健体育] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	教授	山近 博義 <平成31年4月> 修士(文学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B[地誌] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	馬場 良始 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)C[代数] 教科内容研究(科学と数学)C[代数] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	柳本 朋子 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(科学と数学)C[算数・数学] ※ 教材・題材開発研究(科学と数学)C[数学教育] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	畦 浩二 <平成31年4月> 博士(理学)
		授業研究演習(科学と数学)A[理科]
兼任	教授	川村 三志夫 <平成31年4月> 博士(農学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)A[生物] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	神鳥 和彦 <平成31年4月> 博士(工学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)A[化学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	福江 純 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)A[地学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	篠澤 一彦 <平成31年4月> 博士(情報学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)B[電気] 教材・題材開発研究(科学と数学)B[技術統合] 教科内容研究(科学と数学)B[電気] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	赤松 喜久 <平成31年4月> 修士(体育学)
		授業研究演習(身体と表現)C[体育・保健体育] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	太田 順康 <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	教授	太田 順康 <平成31年4月> 修士(体育学)
		教材・題材開発研究(身体と表現)C〔剣道〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教材・題材開発研究(身体と表現)C〔剣道〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	吉和 悟 <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	教授	吉和 悟 <平成31年4月> 修士(体育学)
		教材・題材開発研究(身体と表現)C〔器械運動〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教材・題材開発研究(身体と表現)C〔器械運動〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	鉄口 宗弘 <平成31年4月> 博士(学術)	兼任	教授	鉄口 宗弘 <平成31年4月> 博士(学術)
		教材・題材開発研究(身体と表現)C〔健康・体力〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教材・題材開発研究(身体と表現)C〔健康・体力〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	平田 久美子 <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	教授	平田 久美子 <平成31年4月> 博士(医学)
		子どもの疾病・傷害と援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			子どもの疾病・傷害と援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	井奥 加奈 <平成31年4月> 博士(学術)	兼任	教授	井奥 加奈 <平成31年4月> 博士(学術)
		教材・題材開発研究(個人と社会)A〔食育〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教材・題材開発研究(個人と社会)A〔食育〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	大本 久美子 <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	教授	大本 久美子 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(個人と社会)A〔家庭科〕 教材・題材開発研究(個人と社会)A〔消費生活と環境〕 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			授業研究演習(個人と社会)A〔家庭科〕 教材・題材開発研究(個人と社会)A〔消費生活と環境〕 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	中田 忍 <平成31年4月> 博士(学術)	兼任	教授	中田 忍 <平成31年4月> 博士(学術)
		教材・題材開発研究(個人と社会)A〔食と健康〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教材・題材開発研究(個人と社会)A〔食と健康〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	池田 利広 <平成31年4月> 修士(芸術学)	兼任	教授	池田 利広 <平成31年4月> 修士(芸術学)
		カリキュラムデザイン演習(身体と表現)B-心 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			カリキュラムデザイン演習(身体と表現)B-心 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	加藤 可奈術 <平成31年4月> 修士(芸術学)	兼任	教授	加藤 可奈術 <平成31年4月> 修士(芸術学)
		教材・題材開発研究(身体と表現)B〔芸術と異文化交流1〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ			教材・題材開発研究(身体と表現)B〔芸術と異文化交流1〕 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	教授	新崎 国広 <平成31年4月> 修士(学術)	兼任	教授	新崎 国広 <平成31年4月> 修士(学術)
		社会環境と子どもの心身の理解 ※ 共生社会をめざした協働的援助 ※ 教材・題材開発研究(個人と社会)A消費生活と環境			社会環境と子どもの心身の理解 ※ 共生社会をめざした協働的援助 ※ 教材・題材開発研究(個人と社会)A消費生活と環境

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	碓田 智子 ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		教材・題材開発研究(個人と社会) A [消費生活と環境] ※
兼任	教授	永井 由美子 ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		健康教育の理解と実践 ※
兼任	教授	藤田 大輔 ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		学校安全と危機管理 ※
兼任	教授	鈴木 剛 ＜平成31年4月＞ 博士(農学)
		教材・題材開発研究(科学と数学) B [栽培] 教材・題材開発研究(科学と数学) B [技術統合] 教科内容研究(科学と数学) B [栽培]
兼任	教授	藤田 修 ＜平成31年4月＞ 博士(工学)
		Eラーニング
兼任	教授	赤木 登代 ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		国際教育比較実践交流
兼任	教授	和田 良彦 ＜平成31年4月＞ 大学
		人権教育の課題と実践
兼任	教授	森 実 ＜平成31年4月＞ 修士(学術)
		人権教育の課題と実践
兼任	教授	瀬野 操三 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		学校安全と危機管理 ※ 学校危機における援助ニーズ
兼任	准教授	生馬 裕子 ＜平成31年4月＞ 修士(学術)
		教科内容開発研究(英語) 教科内容開発研究演習(英語) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	加藤 あや子 ＜平成31年4月＞ 大学
		就学前の援助ニーズへの多様な支援 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	碓田 智子 ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		教材・題材開発研究(個人と社会) A [消費生活と環境] ※
兼任	教授	永井 由美子 ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		健康教育の理解と実践 ※
兼任	教授	藤田 大輔 ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		学校安全と危機管理 ※
兼任	教授	鈴木 剛 ＜平成31年4月＞ 博士(農学)
		教材・題材開発研究(科学と数学) B [栽培] 教材・題材開発研究(科学と数学) B [技術統合] 教科内容研究(科学と数学) B [栽培]
兼任	教授	藤田 修 ＜平成31年4月＞ 博士(工学)
		Eラーニング
兼任	教授	赤木 登代 ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		国際教育比較実践交流
兼任	教授	和田 良彦 ＜平成31年4月＞ 大学
		人権教育の課題と実践
兼任	教授	森 実 ＜平成31年4月＞ 修士(学術)
		人権教育の課題と実践
兼任	教授	瀬野 操三 ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		学校安全と危機管理 ※ 学校危機における援助ニーズ
兼任	教授	岡田 耕治 ＜平成31年4月＞ 大学 生徒指導と教育相談の実践的課題
兼任	教授	島崎 英夫 ＜平成31年4月＞ 大学 学校経営と学級経営の理論と実践
兼任	准教授	生馬 裕子 ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		教科内容開発研究(英語) 教科内容開発研究演習(英語) 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	加藤 あや子 ＜平成31年4月＞ 大学
		就学前の援助ニーズへの多様な支援 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	<p>尖戸 隆之</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>学習開発研究(体育)</p> <p>学習開発研究演習(体育)</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>高永 雅</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 博士(理学)</p>
		<p>学習開発研究(算数)</p> <p>学習開発研究演習(算数)</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>中橋 美穂</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>就学前の援助のための政策・システム ※</p> <p>就学前教育と福祉の協働 ※</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>野田 航</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 博士(心理学)</p>
		<p>社会環境と子どもの心身の理解 ※</p> <p>障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ ※</p> <p>共生社会をめざした協働的援助 ※</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>松井 祐</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>学習開発研究(図面工作)</p> <p>学習開発研究演習(図面工作)</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>吉野 秀幸</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>学習開発研究(音楽)</p> <p>学習開発研究演習(音楽)</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>上田 裕美</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>小林 将太</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>授業研究演習(個人と社会)C [道徳] ※</p> <p>教材・題材開発研究(個人と社会)C [道徳b]</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>小松 孝至</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 博士(教育学)</p>
		<p>児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ ※</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	<p>尖戸 隆之</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; <b>博士(医学)</b></p>
		<p>学習開発研究(体育)</p> <p>学習開発研究演習(体育)</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>高永 雅</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 博士(理学)</p>
		<p>学習開発研究(算数)</p> <p>学習開発研究演習(算数)</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>中橋 美穂</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>就学前の子どもの援助のための政策・システム ※</p> <p><b>就学前教育と福祉の協働—※</b></p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>野田 航</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 博士(心理学)</p>
		<p>社会環境と子どもの心身の理解 ※</p> <p>障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ ※</p> <p>共生社会をめざした協働的援助 ※</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>松井 祐</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>学習開発研究(図面工作)</p> <p>学習開発研究演習(図面工作)</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>吉野 秀幸</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>学習開発研究(音楽)</p> <p>学習開発研究演習(音楽)</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>上田 裕美</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>小林 将太</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 修士(教育学)</p>
		<p>授業研究演習(個人と社会)C [道徳] ※</p> <p>教材・題材開発研究(個人と社会)C [道徳b]</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>
兼任	准教授	<p>小松 孝至</p> <p>&lt;平成31年4月&gt; 博士(教育学)</p>
		<p>児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ ※</p> <p>基本学校実習Ⅰ</p> <p>基本学校実習Ⅱ</p> <p>発展課題実習Ⅰ</p> <p>発展課題実習Ⅱ</p> <p>実践課題研究Ⅰ</p> <p>実践課題研究Ⅱ</p>

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	准教授	高橋 一郎 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	平賀 健太郎 <平成31年4月> 博士(理学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援 ※ 特別なニーズのある子どもの臨床 特別支援教育の現代的課題 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	櫻澤 謙 <平成31年4月> 博士(文学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B[歴史] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	西村 貴裕 <平成31年4月> 博士(法学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B[法と社会] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	岡安 顕 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)C[解析] 教科内容研究(科学と数学)C[解析] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	貞末 岳 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)C[確率] 教科内容研究(科学と数学)C[確率] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	生田 孝介 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A[動物系統] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	岡崎 純子 <平成31年4月> 修士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A[植物進化] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	種田 得嗣 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A[有機化学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	准教授	高橋 一郎 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	櫻澤 謙 <平成31年4月> 博士(文学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B[歴史] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	西村 貴裕 <平成31年4月> 博士(法学)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B[法と社会] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	岡安 顕 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)C[解析] 教科内容研究(科学と数学)C[解析] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	貞末 岳 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)C[確率] 教科内容研究(科学と数学)C[確率] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	生田 孝介 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A[動物系統] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	岡崎 純子 <平成31年4月> 修士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A[植物進化] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	種田 得嗣 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A[有機化学] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	深澤 優子 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A [実験物理] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	松本 桂 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A [天文] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	吉本 直弘 <平成31年4月> 博士(地球環境科学)
		教科内容研究(科学と数学)A [気象] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	成田 一人 <平成31年4月> 博士(工学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)B [金属加工] 教材・題材開発研究(科学と数学)B [技術統合] 教科内容研究(科学と数学)B [金属加工] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	光永 法明 <平成31年4月> 博士(工学)
		授業研究演習(科学と数学)B [技術] 教材・題材開発研究(科学と数学)B [情報] 教材・題材開発研究(科学と数学)B [技術統合] 教科内容研究(科学と数学)B [情報] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	小川 剛司 <平成31年4月> 博士(体育科学)
		教材・題材開発研究(身体と表現)C [保健学習] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	大進 乃里江 <平成31年4月> 修士(教育学)
		子どもの心身の健康における予防的な関わりと協働的援助 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	橋本 あかね <平成31年4月> 修士(応用情報科学)
		健康教育の理解と実践 ※ 子どもの疾病・傷害と援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	深澤 優子 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A [実験物理] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	松本 桂 <平成31年4月> 博士(理学)
		教科内容研究(科学と数学)A [天文] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	吉本 直弘 <平成31年4月> 博士(地球環境科学)
		教科内容研究(科学と数学)A [気象] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	成田 一人 <平成31年4月> 博士(工学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)B [金属加工] 教材・題材開発研究(科学と数学)B [技術統合] 教科内容研究(科学と数学)B [金属加工] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	光永 法明 <平成31年4月> 博士(工学)
		授業研究演習(科学と数学)B [技術] 教材・題材開発研究(科学と数学)B [情報] 教材・題材開発研究(科学と数学)B [技術統合] 教科内容研究(科学と数学)B [情報] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	小川 剛司 <平成31年4月> 博士(体育科学)
		教材・題材開発研究(身体と表現)C [保健学習] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	大進 乃里江 <平成31年4月> 修士(教育学)
		子どもの心身の健康における予防的な関わりと協働的援助 ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	准教授	橋本 あかね <平成31年4月> 修士(応用情報科学)
		健康教育の理解と実践 ※ 子どもの疾病・傷害と援助ニーズ ※ 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

## 【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任	准教授	小崎 恭弘 <平成31年4月> 修士(臨床教育学) 教育学と福祉の協働 ※ 教材・題材開発研究(個人と社会) A [家族と保育] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	山田 由佳子 <平成31年4月> 修士(教育学) 教材・題材開発研究(個人と社会) A [被服と生活] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	兼平 佳枝 <平成31年4月> 修士(教育学) 授業研究演習(身体と表現) A [音楽] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	孫谷 紀郎 <平成31年4月> Master of Music 教材・題材開発研究(身体と表現) A [作曲] 教材・題材開発研究(身体と表現) A [指揮] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	瀬川 賢一 <平成31年4月> 修士(教育学) 授業研究演習(身体と表現) B [書道] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	出野 文莉 <平成31年4月> 博士(人間・環境学) 教材・題材開発研究(身体と表現) B [書道] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	深邊 美香 <平成31年4月> 修士(美術) 授業研究演習(身体と表現) B [図面工作・美術] 教材・題材開発研究(身体と表現) B [芸術と異文化交流 2] ※ 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	後藤 健介 <平成31年4月> 博士(工学) 学校安全と危機管理 ※
兼任	准教授	豊沢 純子 <平成31年4月> 博士(心理学) 学校安全と危機管理 ※

## 【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任	准教授	小崎 恭弘 <平成31年4月> 修士(臨床教育学) 教育学と福祉の協働 ※ 教材・題材開発研究(個人と社会) A [家族と保育] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	山田 由佳子 <平成31年4月> <b>博士(学術)</b> 教材・題材開発研究(個人と社会) A [被服と生活] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	兼平 佳枝 <平成31年4月> <b>博士(学校教育学)</b> 授業研究演習(身体と表現) A [音楽] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	孫谷 紀郎 <平成31年4月> Master of Music 教材・題材開発研究(身体と表現) A [作曲] 教材・題材開発研究(身体と表現) A [指揮] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	瀬川 賢一 <平成31年4月> 修士(教育学) 授業研究演習(身体と表現) B [書道] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	出野 文莉 <平成31年4月> 博士(人間・環境学) 教材・題材開発研究(身体と表現) B [書道] 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	深邊 美香 <平成31年4月> <b>博士(美術)</b> 授業研究演習(身体と表現) B [図面工作・美術] 教材・題材開発研究(身体と表現) B [芸術と異文化交流 2] ※ 基本学校実習 I 基本学校実習 II 発展課題実習 I 発展課題実習 II 実践課題研究 I 実践課題研究 II
兼任	准教授	後藤 健介 <平成31年4月> 博士(工学) 学校安全と危機管理 ※
兼任	准教授	豊沢 純子 <平成31年4月> 博士(心理学) 学校安全と危機管理 ※

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	江藤 亮 <平成31年4月> 修士(デザイン学)	教材・題材開発研究(身体と表現) B [芸術と異文化交流2] ※ 教材・題材開発研究(身体と表現) B [映像・メディア教育]
兼任	准教授	岩切 昌宏 <平成31年4月> 大学	学校安全と危機管理 ※ メンタルヘルズ課題の理解
兼任	准教授	佐久間 敦史 <平成31年4月> 修士(教育学)	総合的学習の開発と実践
兼任	講師	渡邊 創太 <平成31年4月> 博士(文学)	学習指導の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	講師	三宅 亜美 <平成31年4月> 博士(行動科学)	特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援 ※ 発達障がいのある子どもの理解と支援 ※ 特別支援教育の現代的課題 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	講師	石川 美久 <平成31年4月> 修士(体育学)	教材・題材開発研究(身体と表現) C [柔道] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	講師	林 洋輔 <平成31年4月> 博士(体育科学)	教材・題材開発研究(身体と表現) C [体育基礎論] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	講師	高間 由香里 <平成31年4月> 博士(文学)	教材・題材開発研究(身体と表現) B [美術鑑賞] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任教授	金森 裕治 <平成31年4月> 修士(教育学)	特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別支援教育の現代的課題 ※
兼任	特任教授	須田 正信 <平成31年4月> 修士(学校教育学)	特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別支援教育コーディネーター論 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ(特別支援) 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	江藤 亮 <平成31年4月> 修士(デザイン学)	教材・題材開発研究(身体と表現) B [芸術と異文化交流2] ※ 教材・題材開発研究(身体と表現) B [映像・メディア教育]
兼任	准教授	岩切 昌宏 <平成31年4月> 大学	学校安全と危機管理 ※ メンタルヘルズ課題の理解
兼任	准教授	佐久間 敦史 <平成31年4月> 修士(教育学)	総合的学習の開発と実践
兼任	講師	渡邊 創太 <平成31年4月> 博士(文学)	学習指導の実践的展開 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	講師	三宅 亜美 <平成31年4月> 博士(行動科学)	特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援 ※ 発達障がいのある子どもの理解と支援 ※ 特別支援教育の現代的課題 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	講師	石川 美久 <平成31年4月> 修士(体育学)	教材・題材開発研究(身体と表現) C [柔道] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	講師	林 洋輔 <平成31年4月> 博士(体育科学)	教材・題材開発研究(身体と表現) C [体育基礎論] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	講師	高間 由香里 <平成31年4月> 博士(文学)	教材・題材開発研究(身体と表現) B [美術鑑賞] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任教授	金森 裕治 <平成31年4月> 修士(教育学)	特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別支援教育の現代的課題 ※
兼任	特任教授	須田 正信 <平成31年4月> 修士(学校教育学)	特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別支援教育コーディネーター論 特別支援教育の現代的課題 ※ 特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ(特別支援) 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	特任教授	田中 秀典 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)C[幾何] 教科内容研究(科学と数学)C[幾何]
兼任	特任准教授	大内田 裕 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの生理と病理 特別支援教育の現代的課題 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	特任教授	阪本 尚正 <平成31年4月> 博士(医学)
		子どもの疾病・傷害と援助二一 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任教授	寺尾 正 <平成31年4月> 修士(芸術学)
		教材・題材開発研究(身体と表現)A[音楽] 教材・題材開発研究(身体と表現)A[表現] 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任教授	田中 秀典 <平成31年4月> 博士(理学)
		教材・題材開発研究(科学と数学)C[幾何] 教科内容研究(科学と数学)C[幾何]
兼任	特任教授	上出 吉剛 <平成31年4月> 修士(学術)
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任教授	松本 明義 <平成31年4月> 修士(教育学)
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任准教授	大内田 裕 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)
		特別ニーズ教育の理論と実践 ※ 特別なニーズのある子どもの生理と病理 特別支援教育の現代的課題 ※ 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任准教授	小路口 真理美 <平成31年4月> 大学
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任准教授	松岡 礼子 <平成31年4月> 博士(教育学)
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任准教授	清田 朗裕 <平成31年4月> 博士(文学)
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	特任准教授	加賀 恵子 <平成31年4月> 博士(教育学)
		授業研究演習(個人と社会)A 【家庭科】
兼任	特任講師	今枝 史雄 <平成31年4月> 修士(教育学)
		特別ニース教育の理論と実践 ※インクルーシブ教育の理論と実践 ※特別支援教育の現代的課題 ※特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	特任准教授	青木 宏子 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教材・題材開発研究(身体と表現)B【デザイン】 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任准教授	谷村 さくら <平成31年4月> 修士(教育学)
		教材・題材開発研究(身体と表現)B【工業】 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任准教授	新井 壽 <平成31年4月> 修士(教育学)
		基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任准教授	加賀一恵子 <平成31年4月> 修士(教育学)
		授業研究演習(個人と社会)-A 【家庭科】
兼任	特任講師	今枝 史雄 <平成31年4月> 修士(教育学)
		特別ニース教育の理論と実践 ※インクルーシブ教育の理論と実践 ※特別支援教育の現代的課題 ※特別支援教育の教育課程と授業論 基本学校実習Ⅲ(特別支援) 基本学校実習Ⅳ(特別支援) 発展課題実習Ⅲ(特別支援) 発展課題実習Ⅳ(特別支援) 実践課題研究Ⅰ
兼任	特任講師	中西 修一郎 <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育研究方法演習 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任講師	佐藤 雄一郎 <平成31年4月> 修士(教育学)
		生徒指導と教育相談の実践的課題 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ
兼任	特任講師	井上 昌憲 <平成31年4月> 博士(学術)
		教材・題材開発研究(個人と社会)B【歴史】 基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅱ 発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅱ 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報と)  
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)  
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は大学の赤字としてください。**  
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認し  
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。  
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください  
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてくださ

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・平成31年4月、板垣 翔大、田中 真秀、野嶋 敏一、柿 慶子、梅川 康治、澤田 和夫、松永 尚子、堀川 理介、岩崎 弘が、専任教員（専み・専他含む）として就任。
- ・平成31年4月、西山 健、平賀 健太郎が兼任教員から専任教員（専他）に変更。
- ・平成31年4月、箱崎 雄子、種村 雅子が准教授から教授に昇任。
- ・平成31年4月、岡田 耕治、島崎 英夫、阪本 尚正、寺尾 正、上出 吉則、松本 明美、小路口 真理美、松岡 礼子、清田 朗裕、青木 宏子、谷村 さくら、新井 馨、中西 修一朗、佐藤 雄一郎、井上 岳彦が、兼任教員として就任。
- ・時間割編成上の理由により、加賀 恵子の担当授業が無しとなったため、兼任教員としての配置取りやめ。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要教 授数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数
37 名	25 名	15 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【教職大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
29	13	2	0	44	36	15	4	0	55
(29)	(13)	(2)	0	(44)					
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数		
28	16	0			32	23	0		
0	0	0							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
36	15	4	0	55	36	15	4	0	55
[ +7 ]	[ +2 ]	[ +2 ]	[ ]	[ +11 ]	[ +7 ]	[ +2 ]	[ +2 ]	[ ]	[ +11 ]
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数		
32	23	0			32	23	0		
[ +4 ]	[ +7 ]	[ ]			[ +4 ]	[ +7 ]	[ ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 70(特任教員)	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{55}{44} = \boxed{125} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{55} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	専任・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
2						
合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	専任・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1						
2						
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	科目	計	科目	計	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{\#REF!} = \#REF! \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	該当なし					
2						
合計			後任補充状況の集計			
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">                 該当なし             </div>
---

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

該当なし		履行状況		今後の実施計画
認可時 (〇〇年)		留意事項	履行中	
設置計画履行状況調査時 (〇〇年)		是正意見	履行済	
設置計画履行状況調査時 (△△年)		改善意見	履行済	
設置計画履行状況調査時 (□□年)		指摘事項 (法令違反)	履行済	
設置計画履行状況調査時 (□□年)		指摘事項 (是正)	履行中	
設置計画履行状況調査時 (□□年)		指摘事項 (改善)	履行中	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

< 連合教職実践研究科 高度教職開発専攻（教職大学院） >

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教員の資質向上のために実施される本学のFDは、「大阪教育大学ファカルティ・ディベロップメント事業推進委員会」によって実施される全学FDと、本研究内に設置している「FD委員会」において企画・実施している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

改組前の平成30年度は1～2か月に1度程度の開催。概ね全構成員（5名）が出席。H31年4月改組後については、FD委員会が発足して期間が短いため、未開催。

c 委員会の審議事項等

当該年度におけるFD事業計画

② 実施状況

a 実施内容

平成31年3月7日、「教育委員会との連携」及び「今年度の事業及び研究成果の報告」

b 実施方法

天王寺キャンパスと柏原キャンパスをテレビ会議で接続して実施。教育委員会関係者や連携大学教員を招き、研究生や現職教員院生をゲストとした発表、ラウンドテーブルの形式で実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

教員21名、教育委員会関係者1名、連携大学関係者2名、職員9名、研究生1名、現職教員院生1名（天王寺キャンパス26名、柏原キャンパス9名）計35名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

紹介された天王寺キャンパスにおける学外連携事業を参考に、柏原キャンパスの教育研究体制や実習体制の改善をめざした事業について検討中である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成31年4月改組後は、未だ実施していないが前期終了時及び後期終了時に実施することとしている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員に対しては授業改善につながるよう担当科目それぞれの学生評価データを提供することとしている。また、学生に対しては本学Webページを活用し、データ集計した包括的なものを提供することとしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

### (3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

#### ① 体制

##### a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

大阪教育大学連合教職実践研究科連携会議を、平成31年4月に、専門職大学院設置基準の改正に併せ、教育課程連携協議会へ機能を移行させ、委員構成を変更するなどして体制を再整備した。

##### b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

平成29年度及び平成30年度は年間1回の開催。平成31年度は2回の開催を予定している。

##### c 委員会の審議事項等

- (1) 構成団体との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- (2) 構成団体との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項
- (3) その他教職実践研究科に関する必要な事項

##### d その他

連携会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。ただし、構成員の過半数は、連合構成大学の教職員以外の者としている。

- (1) 大阪教育大学副学長 1人
- (2) 大阪教育大学大学院連合教職実践研究科主任
- (3) 関西大学学長が推薦する者 1人
- (4) 近畿大学学長が推薦する者 1人
- (5) 大阪府教育長が推薦する者 1人
- (6) 大阪府教育長が推薦する者 1人
- (7) 堺市教育長が推薦する者 1人
- (8) 連携協力校の校長 5人以内
- (9) その他学長が必要と認めたる者（連合構成大学の教職員を除く。） 若干人

#### ② 審議状況

##### a 審議した内容

1. 大阪教育大学大学院連合教職実践研究科連携会議設置要項の一部改正について
2. 平成31年度以降の教育課程について
3. 平成31年度以降の実習校（連携協力校）の確保について
4. 現職教員の研修機能について
5. 修了生に対するインセンティブ等について
6. 教育課程連携協議会への移行について

##### b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

教育の質の改善・向上に係る大学全体としての体制は、「学内外からの意見・提言等を大学運営に反映させる仕組み」によるPDCAサイクルが整備されており、当連携会議（教育課程連携協議会）の他、教員育成協議会、提言委員会、拡大連携協議会、高校コンソーシアムとの意見交換会等での提言・意見等を把握し、教職大学院を含む大学運営に反映することとしている。

##### c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

教職大学院の教育課程への反映について検討中である。

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本研究科は、平成31年4月改組から間もないため、改組目的の達成状況について現時点で評価することは困難であるが、設置計画どおりに順調に推移しているものと考えられる。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

- ・令和2年1月31日 公表予定

###### b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を作成し、教職員共通ポータルサイトに掲載
- ・大学ホームページ上に公開予定

##### ③ 認証評価を受ける計画

一般財団法人教員養成評価機構による教職大学院認証評価を今年度受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (  有 ・  無 )

b 公表有の場合の公表（予定）時期 ( 令和 2年 5月 1日 )

b 公表無の場合の特段の理由 ( )

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

## 【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(教職大学院)作成要領】

1. 本資料は、報告年度の5月1日現在で作成してください。
2. 様式中の項目にある注書きは削除せず、記載したままにしてください。
3. 全ページ通しページを付し、表紙の次に目次を入れるとともに、「〇〇大学教職大学院」というヘッダーを左上に記入してください。
4. 4つの大項目ごとにインデックス(1~4の数字番号のみ)を貼付してください。中項目(①~)についてはインデックスは不要です。
5. 本補足説明資料は、「設置計画履行状況報告書」とは別綴じとし、添付資料として巻末に「研究科案内パンフレット」、「履修要項(手引き)」、「授業計画(シラバス):認可(設置)時の計画に修正がある場合は見え消し版」、「入学者選抜要項」を添付してください。また、各項目を説明する上で必要な資料がこれ以外にある場合も巻末にまとめて添付してください。その際、各添付資料をインデックス(資料1, 資料2...)で整理し、資料の冒頭に資料目次を付けてください(目次ページにも「資料目次」とインデックスを付けてください。)。また、本文中には(資料1), (資料2)など、本文と資料の関連が分かるような記載をしてください。
6. 本補足説明資料は、A4サイズ縦型、両面印刷、左上とじ、左側2穴空けとしてください。
7. 「3 設置の趣旨等を記載した書類の履行状況」については、設置認可申請書(設置計画書)の「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版版)」の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って、認可(設置)時の計画及びその履行状況等を記入してください。目安として各シートA4判1~2枚程度で作成してください。
8. 「認可(設置)時の計画」欄には、設置認可申請書(設置計画書)の要点を簡潔にまとめた内容を記載してください。
9. 認可(設置)時の計画から変更が生じている場合は、「履行状況」に、その変更箇所を朱書きで見え消し修正するとともに、理由も付記してください。認可(設置)時の計画から変更が生じていない場合は、「認可(設置)時の計画どおりに履行」と記入した後に、履行状況を具体的に記載してください。
10. 「履行状況」の記載については、項目に対する履行状況等を記載するとともに、履行状況を裏付ける資料・図表等を巻末に添付したり(5.を参照)、抜粋して転載したりしてください。また、「履行状況」には、前年度に記載した事項があればそれを残しつつ、本年度の状況も記載してください。その場合、記載した年度を( )書きで付記してください。
11. 本補足説明資料は1部提出してください。

〈様式及び記載例〉

設置計画履行状況報告書・補足説明資料（教職大学院）

大阪教育大学大学院 連合教職実践研究科  
【教職大学院】

国立大学法人 大阪教育大学  
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 経営戦略課

職名・氏名 経営戦略係長 カシサキ 梶崎 サトシ 智志

電話番号 072-978-3208

F A X 072-978-3225

e-mail kikaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

# 目次

## 連合教職実践研究科

＜高度教職開発専攻＞	ページ
1. 調査対象研究科等の令和元年度入学者・在学者の状況 . . . . .	1
2. 既存の教員養成系修士課程の状況 . . . . .	5
3. 設置の趣旨等を記載した書類の履行状況 . . . . .	10
4. 教育委員会等との調整内容の履行状況 . . . . .	22

1 調査対象研究科等の令和元年度入学者・在学者の状況

① 調査対象研究科等の令和元年度入学者の状況  
(スクールリーダーシップコース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	大阪市 教育委員会	4		1					5	その他1名の内訳 川西市教育委員会指導 主事 1名	
		大阪府 教育委員会			1					1		
		堺市 教育委員会			1					1		
		川西市 教育委員会							1	1		
	派遣制度以外	大阪市立 公立学校		5		2		2			9	
		大阪府立 公立学校		1				1	1		3	
		堺市 公立学校								1	1	
		その他 公立学校									0	
		大阪教育大 学 附属学校 (内地研修)		1							1	
	私立学校等						1			1		
	小 計		0	11	0	5	0	4	1	2	23	
学部新卒学生												
その他(社会人等)					1				1	1	その他1名の内訳 ・養護教諭1名	
合 計										24		

(援助ニーズ教育実践コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	大阪市 教育委員会								0		
		大阪府 教育委員会						1		1		
		堺市 教育委員会		1								1
		川西市 教育委員会										0
	派遣制度以外	大阪市立 公立学校	1								1	
		大阪府立 公立学校		3							3	
		堺市 公立学校				1					1	
		その他 公立学校		1		1					2	
		大阪教育大 学 附属学校 (内地研修)				1			2		3	
	私立学校等	1						1		2		
	小 計		2	5	0	3	0	2	2	0	14	
学部新卒学生		2	8		8		6		1	11	その他1名の内訳 ・養護教諭1名	
その他(社会人等)		1	1		1			1		2		
合 計										27		

(教育実践力コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	大阪市教育委員会								0		
		大阪府教育委員会								0		
		堺市教育委員会								0		
		川西市教育委員会								0		
	派遣制度以外	大阪市立公立学校		1							1	
		大阪府立公立学校				2					2	
		堺市公立学校									0	
		その他公立学校									0	
		大阪教育大学附属学校(内地研修)									0	
		私立学校等									0	
	小 計		0	1	0	2	0	0	0	0	3	
学部新卒学生		4	25		50		51			58		
その他(社会人等)												
合 計										61		

(特別支援教育コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	大阪市教育委員会								0		
		大阪府教育委員会								0		
		堺市教育委員会									0	
		川西市教育委員会									0	
	派遣制度以外	大阪市立公立学校									0	
		大阪府立公立学校									0	
		堺市公立学校									0	
		その他公立学校									0	
		大阪教育大学附属学校(内地研修)									0	
		私立学校等									0	
	小 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
学部新卒学生		1	1					1		1		
その他(社会人等)												
合 計										1		

- (注)・ コースや領域・プログラム等、最小単位の区分ごとに表を作成してください。  
 ・ 黄色セル部分は自動計算されますので、手入力しないでください。  
 ・ 現職教員については、現在所属する、休業・退職している場合は入学直前に所属していた学校種に基づいて計上してください。  
 ・ 現職教員の区分は、各大学の実態に合わせて、適宜追加・削除してください。  
 ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を複数所持している場合は、該当する校種(幼稚園～特別支援学校)の区分すべてに記入し、「計」欄には実数を記入してください。  
 ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を所持していない場合は、「その他」に計上し、備考欄にその旨が分かるように記載してください。  
 ・ 現職教員・学部新卒学生・その他(社会人等)のいずれについても、「その他」に分類される院生がいる場合は、具体的な内訳を備考欄に記載してください。

② 調査対象研究科等の令和元年度在学者の状況

(スクールリーダーシップコース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	大阪市教育委員会	4		1					5	その他1名の内訳 川西市教育委員会指導 主事 1名	
		大阪府教育委員会			1					1		
		堺市教育委員会			1					1		
		川西市教育委員会							1	1		
	派遣制度以外	大阪市立公立学校		5		2		2			9	
		大阪府立公立学校		1				1	1		3	
		堺市公立学校								1	1	
		その他公立学校									0	
		大阪教育大学 附属学校 (内地研修)		1							1	
	私立学校等						1			1		
小 計		0	11	0	5	0	4	1	2	23		
学部新卒学生												
その他(社会人等)					1				1	1	その他1名の内訳 ・養護教諭1名	
合 計										24		

(援助ニーズ教育実践コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	大阪市教育委員会								0		
		大阪府教育委員会						1		1		
		堺市教育委員会		1								1
		川西市教育委員会										0
	派遣制度以外	大阪市立公立学校	1								1	
		大阪府立公立学校		3							3	
		堺市公立学校				1					1	
		その他公立学校		1		1					2	
		大阪教育大学 附属学校 (内地研修)				1			2		3	
	私立学校等	1						1		2		
小 計		2	5	0	3	0	2	2	0	14		
学部新卒学生		2	8		8		6		1	11	その他1名の内訳 ・養護教諭1名	
その他(社会人等)		1	1		1			1		2		
合 計										27		

(教育実践力コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	大阪市 教育委員会								0		
		大阪府 教育委員会								0		
		堺市 教育委員会									0	
		川西市 教育委員会									0	
	派遣制度以外	大阪市立 公立学校		1							1	
		大阪府立 公立学校				2					2	
		堺市 公立学校									0	
		その他 公立学校									0	
		大阪教育大 学 附属学校 (内地研修)									0	
		私立学校等									0	
	小 計	0	1	0	2	0	0	0	0	3		
	学部新卒学生		4	25		50		51			58	
その他(社会人等)												
合 計										61		

(特別支援教育コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	大阪市 教育委員会								0		
		大阪府 教育委員会								0		
		堺市 教育委員会									0	
		川西市 教育委員会									0	
	派遣制度以外	大阪市立 公立学校									0	
		大阪府立 公立学校									0	
		堺市 公立学校									0	
		その他 公立学校									0	
		大阪教育大 学 附属学校 (内地研修)									0	
		私立学校等									0	
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	学部新卒学生		1	1					1		1	
その他(社会人等)												
合 計										1		

(注)・ コースや領域・プログラム等、最小単位の区分ごとに表を作成してください。

- ・ 黄色セル部分は自動計算されますので、手入力しないでください。
- ・ 現職教員については、現在所属する、休業・退職している場合は入学直前に所属していた学校種に基づいて計上してください。
- ・ 現職教員の区分は、各大学の実態に合わせて、適宜追加・削除してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を複数所持している場合は、該当する校種(幼稚園～特別支援学校)の区分すべてに記入し、「計」欄には実数を記入してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を所持していない場合は、「その他」に計上し、備考欄にその旨が分かるように記載してください。
- ・ 現職教員・学部新卒学生・その他(社会人等)のいずれについても、「その他」に分類される院生がいる場合は、具体的な内訳を備考欄に記載してください。

## 2 既存の教員養成系修士課程の状況

【教育学研究科学校教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考
入 学 者 数	現職教員				令和元年度から学生募集停止
	派遣制度		1	—	
	派遣制度以外		1	—	
	小計(a)	0	2	0	
	学部新卒学生(b)	8	15	—	
	その他(社会人等)(c)	3	2	—	
	計(d=a+b+c)	11	19	#VALUE!	
	入学定員(e)	15	15	—	
	定員超過率(d/e)	73%	127%	#VALUE!	

【教育学研究科国語教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考
入 学 者 数	現職教員				令和元年度から学生募集停止
	派遣制度			—	
	派遣制度以外			—	
	小計(a)	0	0	0	
	学部新卒学生(b)	2	4	—	
	その他(社会人等)(c)		1	—	
	計(d=a+b+c)	2	5	#VALUE!	
	入学定員(e)	6	6	—	
	定員超過率(d/e)	33%	83%	#VALUE!	

【教育学研究科社会科教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考
入 学 者 数	現職教員				令和元年度から学生募集停止
	派遣制度			—	
	派遣制度以外		1	—	
	小計(a)	0	1	0	
	学部新卒学生(b)	14	7	—	
	その他(社会人等)(c)	3	3	—	
	計(d=a+b+c)	17	11	#VALUE!	
	入学定員(e)	15	15	—	
	定員超過率(d/e)	113%	73%	#VALUE!	

【教育学研究科数学教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		—	令和元年度から学生募集 停止
		派遣制度以外		—	
		小計(a)	0	0	
	学部新卒学生(b)	4	4	—	
	その他(社会人等)(c)			—	
	計(d=a+b+c)	4	4	#VALUE!	
入学定員(e)		7	7	—	
定員超過率(d/e)		57%	57%	#VALUE!	

【教育学研究科理科教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		—	令和元年度から学生募集 停止	
		派遣制度以外		1		—
		小計(a)	0	1		0
	学部新卒学生(b)	10	6	—		
	その他(社会人等)(c)		1	—		
	計(d=a+b+c)	10	8	#VALUE!		
入学定員(e)		14	14	—		
定員超過率(d/e)		71%	57%	#VALUE!		

【教育学研究科英語教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	1		令和元年度から学生募集 停止
		派遣制度以外		1	
		小計(a)	1	1	
	学部新卒学生(b)	5	9	—	
	その他(社会人等)(c)	3	3	—	
	計(d=a+b+c)	9	13	#VALUE!	
入学定員(e)		6	6	—	
定員超過率(d/e)		150%	217%	#VALUE!	

【教育学研究科家政教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度			令和元年度から学生募集 停止	
		派遣制度以外				—
		小計(a)	0	0		0
	学部新卒学生(b)	3	1	—		
	その他(社会人等)(c)		3	—		
	計(d=a+b+c)	3	4	#VALUE!		
入学定員(e)		5	5	—		
定員超過率(d/e)		60%	80%	#VALUE!		

【教育学研究科音楽教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度			令和元年度から学生募集 停止	
		派遣制度以外		2		—
		小計(a)	0	2		0
	学部新卒学生(b)	8	7	—		
	その他(社会人等)(c)			—		
	計(d=a+b+c)	8	9	#VALUE!		
入学定員(e)		11	11	—		
定員超過率(d/e)		73%	82%	#VALUE!		

## 【教育学研究科美術教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		—	令和元年度から学生募集 停止
		派遣制度以外		—	
		小計(a)	0	0	
	学部新卒学生(b)	2	4	—	
	その他(社会人等)(c)	3	2	—	
	計(d=a+b+c)	5	6	#VALUE!	
入学定員(e)		10	10	—	
定員超過率(d/e)		50%	60%	#VALUE!	

## 【教育学研究科保健体育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		—	令和元年度から学生募集 停止	
		派遣制度以外	1	1		—
		小計(a)	1	1		0
	学部新卒学生(b)	11	9	—		
	その他(社会人等)(c)	1		—		
	計(d=a+b+c)	13	10	#VALUE!		
入学定員(e)		10	10	—		
定員超過率(d/e)		130%	100%	#VALUE!		

## 【教育学研究科特別支援教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		—	令和元年度から学生募集 停止
		派遣制度以外		—	
		小計(a)	0	0	
	学部新卒学生(b)	9	8	—	
	その他(社会人等)(c)	3		—	
	計(d=a+b+c)	12	8	#VALUE!	
入学定員(e)		10	10	—	
定員超過率(d/e)		120%	80%	#VALUE!	

## 【教育学研究科技術教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		—	令和元年度から学生募集 停止
		派遣制度以外		—	
		小計(a)	0	0	
	学部新卒学生(b)	1	6	—	
	その他(社会人等)(c)			—	
	計(d=a+b+c)	1	6	#VALUE!	
入学定員(e)		3	3	—	
定員超過率(d/e)		33%	200%	#VALUE!	

## 【教育学研究科養護教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度		—	令和元年度から学生募集 停止	
		派遣制度以外		1		—
		小計(a)	0	1		0
	学部新卒学生(b)		3	—		
	その他(社会人等)(c)			—		
	計(d=a+b+c)	0	4	#VALUE!		
入学定員(e)		3	3	—		
定員超過率(d/e)		0%	133%	#VALUE!		

(注)・ 本表は既存の教員養成系修士課程におけるすべての専攻について作成してください。

必要に応じて表を追加してください。

- ・ 黄色セル部分は自動計算されますので、手入力しないでください。
- ・ 学生募集停止中の研究科・専攻等については、「—」を記入するとともに、「備考」に「平成〇年度から学生募集停止」と記入してください。

### 3 設置の趣旨等を記載した書類の履行状況

① 設置の趣旨及び必要性

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 教育上の理念、目的</p> <p>①学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての教員を養成する。</p> <p>②教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を有する教員を養成する。</p> <p>イ どのような教員を養成するのか。</p> <p>具体的には、目的に応じて以下のようにコース別で教員を養成する計画である。</p> <p>「スクールリーダーシップコース」</p> <p>本コースでは、一定の経験を持つ現職教員を対象とし、教員集団をリードし、保護者、地域住民等と協働して、学校及び地域の新しい教育課題を解決するために求められる優れたリーダーシップを発揮できる教員を養成する。そのため、一定の経験を持つ現職教員に、これまでの教職経験で培った実践的知見と先進的な教育研究に基づく理論的な知見を統合させ、学校経営の中心的役割を担うために必要な実践力を体得させる。</p> <p>「援助ニーズ教育実践コース」</p> <p>本コースでは、現職教員等や学部卒学生等一種免許状取得者を対象とし、多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を探究させ、「チーム学校」の考えに基づく学校内・外の関係者と協働して展開できる教員を養成する。そのため、子どもを取り巻く多様な援助ニーズに対して、協働的に援助する実践力を備えるとともに、現代的な教育課題である子どものいじめや不登校、問題行動に加え、発達障がい、健康課題の視点から、社会環境と個人の関係性を考慮した援助ニーズを理解させる。なお、養護教育や就学前支援のプログラムでは専門性に特化した実践力を育成する。</p> <p>「教育実践力コース」</p> <p>本コースでは、現職教員等や学部卒学生等一種免許状取得者を対象とし、児童・生徒に即した、実践的で高度な学習指導、学習評価の能力を持ち、教員としてのカリキュラム・マネジメントや、教科横断的な視野を持った教科領域の指導、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員を養成する。そのため、カリキュラム・マネジメントの理解を起点として、教科を統合する力を身に付けるとともに、教科領域の確実な学習指導と評価に加え、授業単元・カリキュラム設計とその評価・改善ができる能力を獲得させる。また、ICTの先進的活用、アクティブラーニングなど効果的な授業形態の導入、パフォーマンス課題の設定とルーブリック評価の適切な活用など、教科領域を含む教育実践力を総合的に育成する。</p> <p>「特別支援教育コース」</p> <p>本コースでは、現職教員等や学部卒学生等特別支援学校教諭一種免許状取得者を対象とし、特別支援教育の対象となる子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身に付け、また特別支援コーディネーターとしての役割を担うことのできる教員を養成する。そのため、インクルーシブ教育構築の観点から、特別支援学校、幼稚園、小学校、中学校、高等学校ならびに各種施設における特別なニーズのある子どもたちの能力や個性に応じた専門的な教育支援を追求することによって、特別支援教育における指導的教員、特別支援教育コーディネーター等となるのに必要な洞察力・実践力を育成する。</p>	<p>・大阪教育大学の教育研究上の目的に関する規程第4条（添付資料①参照）</p> <p>大学院連合教職実践研究科は、教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させ、もって学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての教員を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <p>・連合教職大学院パンフレット（添付資料② P1-14参照）</p> <p>「スクールリーダーシップコース」</p> <p>（養成する人材像）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域住民等と協働し、学校及び地域の新しい教育課題の解決に向けてリーダーシップを発揮できる教員</li> <li>・教員集団をリードし、学校経営における中心的役割を担うことのできる教員</li> </ul> <p>（内容）学校や教育機関で働く人を対象にして、自分のいるフィールドで日々感じている具体的な課題を解決できるような授業と研究を行う。実践研究を通して、自身もつ実践と理論とを結びつけ、新しい実践や研究を生み出しながら、社会に貢献できる人材を養成する。</p> <p>「援助ニーズ教育実践コース」</p> <p>（養成する人材像）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を身に付けた教員</li> <li>・「チーム学校」の考え方に基づき、学校内・外の関係者と協働して教育実践を展開できる教員</li> </ul> <p>（内容）教育学や心理学、福祉・医療、特別支援教育、養護教育、就学前教育分野にまたがるクロスカリキュラムを導入し、こどもの複合的で多様な援助ニーズのアセスメントと、それに基づいた教育実践の方法を修得させる。プログラム科目により、各分野からの学校現場における協働的援助の実践力を学ぶ。</p> <p>「教育実践力コース」</p> <p>（養成する人材像）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日的な教育課題に対応した授業開発に先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員</li> <li>・教科領域の確実な指導力とカリキュラム・マネジメント力をもつ教員</li> </ul> <p>（内容）教科領域の違いを超えた教科横断的・総合的な学びをめざす。カリキュラム・デザイン、授業研究、教材・題材開発に係る3つの能力を伸ばす。ICTを含むEラーニングや国際教育比較交流・総合的学習といった今日的課題に対応する科目や、理系教員をめざす学生に向けた高度理系教育科目も開講する。</p> <p>「特別支援教育コース」</p> <p>（養成する人材像）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を必要とする子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身に付けた教員</li> <li>・特別支援教育コーディネーターとしての役割を担うことのできる教員</li> </ul> <p>（内容）障がいの多様化・重度化・重複化、通常の学級における発達障がいのある子どもへの対応、特別支援教育コーディネーターの機能向上など、特別支援教育をめぐる現代的課題に即応できる実践力を身に付ける。</p>

② 教育課程の編成の考え方及び特色

認可（設置）時の計画	履行状況
<p>ア 教育課程の編成の考え方</p> <p>本教職大学院の教育課程は、大きく次の4つの部分から成り立っている。</p> <p>①本教育課程の基礎をなし包括的・体系的な視点を養うために全てのコースの学生が共通に履修する5領域を網羅しつつ現代的教科科目群で構成した「研究科共通科目」を設定する。</p> <p>②「学校実習科目」は、社会に開かれた教育課程を意図し、学校現場だけの実習に留まらず「海外実習」や「適応指導教室」、「他地域実習」等を実施するとともに、1年次と2年時に十分な実習時間を確保するための時間割としている。</p> <p>③学生の属性ごとに各コースの目的に合わせて、その特徴を伸ばすために設定された「コース科目」を1年次と2年次に設ける。</p> <p>④「研究科共通科目」、「学校実習科目」、「コース科目」における2年間の実践的研究を統合して、自らの課題意識を深めつつ、課題解決力の形成を図るための「課題研究科目」を2年次に設定する。</p> <p>また、理論と実践を融合するため、天王寺キャンパスで夜間開講するスクールリーダーシップコースと援助ニーズ教育実践コースは2学期(セメスター)制とし、柏原キャンパスで昼間開講する教育実践カースと特別支援教育コースは2学期4ターム制とする。</p> <p>② 共通科目について</p> <p>現職教員学生及び学部卒学生など、全ての学生が共通に履修する共通科目として、「教育課程の編成及び実施に関する領域」、「教科等の実践的な指導法に関する領域」、「生徒指導及び教育相談に関する領域」、「学級経営及び学校経営に関する領域」、「学校教育と教員の在り方に関する領域」の5領域の科目及び指定科目を設定し、これらから必修及び選択を合わせて18単位を修得する。</p> <p>5領域に加える指定の必修科目としては、学校現場における実践的課題を解決する研究開発力養成の基礎となる科目としての「教育研究方法演習(2単位)」と、本学ならではの学校安全に関わる「学校安全と危機管理(2単位)」を設定している。</p> <p>② 分野別科目について</p> <p>「スクールリーダーシップコース」</p> <p>本コースのコース科目は、コース共通科目とプログラム科目で構成されている。前者は、「学校及び地域の新しい教育課題を解決するために求められる、すぐれたリーダーシップを発揮できる」というコースの「養成する人材像」に対して、その基本的な考え方や取り組み方を受講する大学院生に獲得させるためのものである。その教育方法としては事例研究等が多用される。後者には、大学院生のキャリアや学校等の組織課題に即して、5つのプログラムが用意されている。それぞれのプログラムは3つの科目から成るが、それらは、総論的・事例的・実践的という異なる性格を帯びたものである。それらの履修を通じて大学院生は、当該プログラムの内容を専門的かつ多面的に学ぶことができる。</p> <p>「援助ニーズ教育実践コース」</p> <p>本コースでは、教育学や心理学、福祉・医療、特別支援教育、養護教育、就学前教育分野にまたがるクロスカリキュラムを導入し、一人ひとりの子どもの中に絡み合っって複合的に存在する多様な援助ニーズのアセスメントと、それに基づいた教育実践の方法を修得させることをねらいとする。学校現場における協働的援助の実践力を育成するプログラム科目として、「いじめ・不登校・問題行動」、「子どもの障がい・健康課題」、「養護」、「就学前教育」の4つを開設する。養護プログラムでは、養護教諭の専門性に特化した協働的援助の実践力、就学前教育プログラムでは、就学前の教育や子ども支援に特化した実践力を育成するカリキュラムを開設する。</p> <p>「教育実践カース」</p> <p>本コースでは、研究科共通科目の「教育課程編成の今日的課題」及び「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」とコース共通科目の「教育実践の研究手法」を起点とし、コース科目などを履修した上で、コース共通科目の「カリキュラム・マネジメントの展開」で統合するようにカリキュラムを設計している。コース共通科目の「協働的プロジェクト演習」や「カリキュラム・マネジメントの展開」では、専門教科の異なる院生がグループをつくり、個々の特性を生かした協働的・創造的なプロジェクト学習が展開され、教科領域の違いを超えた、教科横断的・総合的な学習が実現される。また、ICTを含むEラーニングや国際教育比較交流・総合的な学習といった今日的課題に関する科目も開講し、教育現場の諸課題に、広い視野をもって即応できる能力を育成する。選択科目では、A)教科横断的かつ各校園種にまたがる長期的視点で教科領域のカリキュラムを構想・実践する能力、B)授業を研究的に分析・省察し、授業改善につなげる能力、C)教科領域の先端的な教材・題材を開発し、実践的に展開できる能力、を育成する。これらはそれぞれA群「カリキュラムデザイン演習」、B群「授業研究演習」、C群「教材・題材開発研究」という選択科目群に対応している。学校実習・課題研究とこれらのコース科目が緊密に連携・往還することで、高度かつ総合的な実践力を育成する。また、大阪府教育庁・大阪府教育委員会の要望の強い高度理数教育の充実のため、「教科内容研究(科学と数学)」を高度理数教育科目として開講する。</p>	<p>ア 教育課程の編成の考え方</p> <p>・連合教職実践研究科 履修提要（添付資料③P6参照）</p> <p>左記記載のとおり順調に履行している。</p> <p>・連合教職実践研究科 履修提要（添付資料③P6・8参照）</p> <p>左記記載のとおり順調に履行している。</p> <p>・連合教職実践研究科 履修提要（添付資料③P1参照）</p> <p>左記記載のとおり順調に履行している。各コース科目の考え方や構成については、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに記載し、構成員に周知している。</p> <p>・連合教職実践研究科 履修提要（添付資料③P2参照）</p> <p>左記記載のとおり順調に履行している。各コース科目の考え方や構成については、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに記載し、構成員に周知している。</p> <p>・連合教職実践研究科 履修提要（添付資料③P3参照）</p> <p>左記記載のとおり順調に履行している。各コース科目の考え方や構成については、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに記載し、構成員に周知している。</p>

「特別支援教育コース」

本コースでは、特別支援の理論と実際について、教育学、心理学、臨床学などの専門分野の観点から多角的に学ぶとともに、障がいの多様化・重度化・重複化、通常の学級における発達障がい児への対応、特別支援教育コーディネーターの機能向上など、特別支援教育における現代的課題に即応できる実践力を培うカリキュラムとする。

③ 実習科目について

学校実習科目は、「基本学校実習Ⅰ・Ⅱ(各2単位)」と「発展課題実習Ⅰ・Ⅱ(各3単位)」(特別支援教育コースについては、「基本学校実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援](各2単位)」と「発展課題実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援](各3単位)」)の計4科目10単位を修得する。発展課題実習Ⅱにおいては、院生にできるだけ様々な教育環境を経験することで教育現場での社会に開かれた教育課程を体現してもらうことを主眼とした内容の選択プログラムを設けている。

2年間の学校実習を通じて、激しく変化する教育環境に対応し、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための体験的基盤を確立することをねらいとしている。大学内での講義や演習等で得られた知識を、自らの実践を振り返ることで相対化し、さらに伸ばすべき自らの資質能力の育成を、生涯にわたる職能成長の視点で計画する機会とする。教職大学院の実習は、学部段階の実習とは本質的に異なり、院生自身が研究テーマや目的、内容・方法を明確に計画して実施する実習であり、理論と実践の往還を実感し、理論を媒体に教育実践を実践知に変換する資質能力を得ると同時に課題解決に資する能力の育成を旨とする。

学校実習科目は、連携協力校の設定する教育研究テーマや課題と教職大学院生の学修計画とのマッチングを図りながら、適切な実習形態を選択し、教員免許状を取得している学生が実習先の連携協力校の教員と教職大学院担当教員の指導を受ける形で実施される。教職大学院担当教員については、専任教員44名の他、教員養成系兼任教員81名による全学的協力体制のもと、学生1人につき原則として主担当教員と副担当教員の2人で指導にあたる。この主担当教員及び副担当教員は、「研究者教員×実務家教員」を基本としつつ、教職専門担当教員、教科教育担当教員、教科専門担当教員、などの組み合わせを含め、各学生が理論と実践にわたる多様な視点で学校実習科目における課題に取り組むことができるよう配慮している。

学校実習のフィールドについては、現職教員学生は原則、原籍校で行うとともに、現職教員学生の原籍校を学部卒学生が実習を行う連携協力校として位置付けることとしている。学部卒学生90名の実習受け入れ先として、現職教員学生の原籍校(約55校想定)に加え、連合大学の附属学校も含めた、計120校程度の連携協力校を確保している。さらに、学生の課題研究に関するニーズ等により実習校が必要となった場合は、その対応として、教育課程の編成及び実施に関する大阪府下の教育委員会と本学との確認書に基づき、新たな連携協力校の確保に対する協力体制を整えている。

なお、現職教員学生については、学校実習の到達目標を定めつつ、教職経験等との相関性や免除の妥当性を検討し、学校実習の全部もしくは一部を免除する仕組みを新たに導入する。

イ 教育課程の編成の特色

「地元教育委員会との連携による教員の育成」

地元教育委員会からの出資による共同研究講座を教職大学院内に設置し、実質的な連携関係を構築し、教育現場からのニーズ対応に当たっていく。具体的には、指導力向上に向けた共同研究、研修プログラムの開発・実施、課題のある学校に学校支援等の取組を共同研究講座所属教員と高度教職開発講座所属教員が協働で開発・実施し、教職大学院のカリキュラムに反映させていく仕組みを導入する。

協働で開発・実施する教職大学院開講科目は、教育委員会の研修プログラムとして位置付けられるとともに、教職大学院での単位認定を行い、現職教員の教職大学院進学への動機付けに繋げる。

「プログラムの設置」

主に現職教員向けのスクールリーダーシップコースと援助ニーズ教育実践コースでは、3科目6単位からなる現場ニーズに沿いながら具体的な教育課題に対応したプログラムを用意し、主に、総論的、展開的・事例的、実践的という異なる性格の科目で構成する。大学院修了時にはプログラムで得た資質能力証明を修了証書に付記するとともに、将来的には大学院に就学が困難な現職教員に対して単位認定を伴った履修プログラムへの発展を意図する。

・連合教職実践研究科 履修提要 (添付資料③P4参照)

左記記載のとおり順調に履行している。各コース科目の考え方や構成については、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに記載し、構成員に周知している。

・連合教職大学院実習の手引き (添付資料④P2及び⑤P2参照)

左記記載のとおり順調に履行している。学校実習のフィールドについては、院生(原籍校で実習を行う現職教員院生を除く)76人に必要十分な、約130校の実習協力校を、大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・堺市教育委員会並びに附属学校園から事前に確保し、協力校の設定する教育研究テーマや課題と教職大学院生の学修計画とのマッチングを図り院生に配当した。

現職教員を対象とした学校実習科目免除については下を参照。

・連合教職実践研究科学校実習科目履修免除に関する申合せ(添付資料⑥参照)

イ 教育課程の編成の特色

・国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する取組状況について～グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集～P14【大阪教育大学】教員育成指標に基づく養成・研修の企画・運営等をめざした共同研究講座 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/1407166.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/1407166.htm)

左記記載のとおり順調に履行している。

・研究科ホームページ(履修証明プログラム)

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/rengokuyoshoku/rishuushoumei.html>

左記記載のとおり順調に履行している。

③ 教員組織の編成の考え方及び特色

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 教員組織の編成の考え方</p> <p>・実務家教員の配置の考え方</p> <p>本教育課程の基礎をなし包括的・体系的な視点を養うために全てのコースの学生が共通に履修する研究科共通科目は、主に学校現場の実情に即した実践的な教職教育を研究テーマとしている研究者教員と、現場経験が豊富な実務家教員によるチームティーチングによる授業を展開する。</p> <p>学校実習科目は、学生1人につき原則として主担当教員と副担当教員の2人で指導にあたる。この主担当教員及び副担当教員は、「研究者教員×実務家教員」を基本としつつ、教職専門担当教員、教科教育担当教員、教科専門担当教員、などの組み合わせを含め、各学生が理論と実践にわたる多様な視点で学校実習科目における課題に取り組むことができるよう配慮している。</p> <p>・教員の年齢構成と定年規定</p> <p>記載なし</p> <p>イ 教員組織の編成の特色</p> <p>今回の本教職大学院拡充計画においては、現教職大学院専任教員に加え、新たなコンセプトの3コース設置に伴う専任教員の配置を主眼に教員組織を構築した。教職大学院専任教員への移行に際しては、研究業績等のみならず教育現場に関する高度な知見を有することを最低条件とし、特に教科専門担当教員については、学校等での教職経験や学校等との協働による教育実践又は実践研究の経験を有する者を基準として教職大学院専任教員として配置した。</p> <p>主として学部卒学生を入学対象とし、教科領域を扱う教育実践力コースにおいては、コース科目全体のカリキュラム構造として教科教育と教科専門の融合、教科複合型の内容等を担保するため、専任教員以外の教員養成系教員の協力体制(兼任教員)を構築している。</p> <p>全てのコースを通じて、ほぼ全ての教員養成系教員が、専任又は兼任として本教職大学院への運営に関与することで、異なる価値観をもつ研究者教員・実務家教員との協働による新たな課題発見や解決方法の発見等に繋げるとともに、学部教育へフィードバックを実現し、学部と教職大学院の一貫性のある教育システム構築に向けた契機とする。</p> <p>ウ 実務家教員と研究者教員の配置の比率の考え方</p> <p>教職大学院設置基準に則し、16名の実務家教員を配置する。</p> <p>エ 専任教員が担当する学部・大学院の科目一覧</p> <p>記載なし</p>	<p>ア 教員組織の編成の考え方</p> <p>・連合教職大学院改組に伴う教員の属性の考え方について(19.1.16 説明会) (添付資料⑦参照)</p> <p>左記記載のとおり順調に履行している。</p> <p>平成30年度末に定年に達する教員が1名いたが、引き続き特任教員として採用した。</p> <p>イ 教員組織の編成の特色</p> <p>・連合教職大学院パンフレット(添付資料②P8～14 各コース担当教員表参照)</p> <p>左記記載のとおり順調に履行している。</p> <p>ウ 実務家教員と研究者教員の配置の比率の考え方</p> <p>・連合教職実践研究科 組織構成表 (添付資料⑧参照)</p> <p>教職大学院設置基準に則し、全体の4割以上に相当する23名の実務家教員を配置している。</p> <p>エ 専任教員が担当する学部・大学院の科目一覧</p> <p>・専任教員が担当する学部・大学院の科目一覧 (添付資料⑨参照)</p>

④ 教育方法、履修指導の方法及び修了要件

認可（設置）時の計画	履行状況
<p>ア 標準修了年限、履修科目の年間登録上限、修了要件、既修得単位の認定方法、成績評価の方法等 標準修了年限2年、履修科目の年間登録上限36単位、修了要件は、共通科目18単位、学校実習科目10単位、コース科目14単位、課題研究科目4単位、合計46単位以上を満たすことであり、それぞれの科目区分において必修指定があるものについては、それを修得する必要がある。</p> <p>・既修得単位の認定方法、成績評価の方法等については、記載なし</p> <p>イ 学修の修了を総合的・最終的に確認するための方策等 記載なし</p> <p>ウ 実践的な教育を行うための授業の工夫 記載なし</p> <p>エ 現職教員学生と学部新卒学生の合同教育を行う場合の工夫 記載なし</p> <p>オ 1年コースや長期コースを設定する場合の理念、方策</p> <p>カ 現職教員に対する実習免除の基準等 記載なし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施の有無</li> <li>・実習を免除する現職教員学生の教職経験を設定した考え方</li> <li>・教職経験と実習により修得させようとする内容との相関性</li> <li>・免除のプロセス</li> <li>・教職経験の評価方法、評価体制</li> <li>・実習免除の基準</li> <li>・免除のために提出させる書類</li> <li>・免除の判定方法及び判定する組織・体制</li> <li>・入学希望者や学生に対する周知内容、周知方法</li> <li>・免除の実績及びそれが教育効果に与えている影響の分析・検証</li> <li>・実習の免除基準に達している学生が、実習の履修を希望した場合の取扱い</li> </ul>	<p>ア 標準修了年限、履修科目の年間登録上限、修了要件、既修得単位の認定方法、成績評価の方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合教職実践研究科 履修提要（添付資料③P6参照）</li> <li>・教育学研究科履修規程（添付資料⑩参照）</li> <li>・大阪教育大学学則第42条（添付資料⑪参照）</li> <li>・大阪教育大学試験及び成績に関する規程（添付資料⑫参照）</li> </ul> <p>イ 学修の修了を総合的・最終的に確認するための方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科履修提要（添付資料③P6参照）</li> </ul> <p>ウ 実践的な教育を行うための授業の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合教職実践研究科 履修提要（添付資料③P6参照）</li> </ul> <p>エ 現職教員学生と学部新卒学生の合同教育を行う場合の工夫</p> <p>現職教員学生と学部新卒学生が混在して学ぶ援助ニーズ教育実践コースでは、授業を夜間18時以降に開講し現職教員が学びやすい環境を整えるとともに、アクティブラーニングを主体とした学びにより、相互の意見交換を活発に行い刺激を受けられる工夫を行っている。</p> <p>オ 1年コースや長期コースを設定する場合の理念、方策 該当コースなし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施あり</li> <li>・連合教職実践研究科学校実習科目履修免除に関する申合せ（添付資料⑥参照）</li> <li>・現在履修免除申請受付期間であり、免除実績はなし</li> <li>・平成31年度連合教職実践研究科学生募集要項P13（添付資料⑬参照）</li> </ul>

⑤ 既存の学部（修士課程）との関係

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
既存修士課程のうち教員養成系14専攻を廃止する(130名→0名)。	計画どおりに履行

⑥ 入学者選抜の概要

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 入学者選抜の概要(選抜方法、選抜体制等) 記載なし</p> <p>イ アドミッション・ポリシー 記載なし</p> <p>ウ 現職教員受入れのための具体的方策 (「学生の確保の見直し等を記載した書類」への記載事項) 現職教員については、各教育委員会からの派遣枠等によって定員を確保する。大阪府教育委員会については、現職教員のための長期研修支援制度等で10名程度、大阪市教育委員会については、がんばる先生支援事業における教員の大学院修士支援制度等で5名程度、堺市教育委員会については、教職大学院への派遣制度等で2名程度の派遣枠を設定し、毎年本研究科への派遣が行われている。今後の派遣枠拡大については、教職大学院連携協議会を定期的に開催し協議を進めている。</p> <p>この他には、大阪教育大学の附属学校の教員に対する内地研修制度の活用を進める。附属学校の教員は大阪府下の公立学校との5年間の人事交流でかなりの部分を運用しているが、その中から数名の枠で、大学院に派遣する制度が設けられている[資料11]。交流人事において、大阪教育大学の附属学校の教員として勤務する期間に、優秀な教員には教職大学院での学修を確保することによって専門職学位を取得してもらう。これにより、大阪府下の公立学校に専門職学位を持つ実践力・応用力の高い教員を還流させるとともに、附属学校への交流教員に対する志望を集めることを目指すものとし、4名の枠を確保している。</p> <p>また、本研究科においては、平成29年度より大阪市教育委員会との連携により、「学校教育ICT推進リーダー」養成科目の開発を目的として共同研究を展開しており、本研究科の開講科目と大阪市教育委員会の教員研修を連動させる仕組みの構築を平成31年度に向けて進めている。これにより、本研究科の入学希望者拡大が期待できる。</p> <p>さらに、本学では「現職教員の通いやすい教職大学院」をめざし、改革を促進する。具体的には、短期履修制度の整備、現職研修プログラムと連動した教職大学院科目(既修得科目認定)の設定及び授業料免除枠の拡大、土日・夏季集中開講の促進を行う。</p> <p>エ 学部新卒者受入れのための具体的方策 大阪における優れた教員を、幅広い資質能力を持った学生の中から養成するために、連合教職大学院を構成する関西大学及び近畿大学からの推薦枠を現行の各数名からさらに拡大することによって、多様で優秀な人材の確保を行いたいと考え、協議を進めている。また、現在連合を構成している3大学の他に、連合あるいは連携する大学を開拓することを視野に入れ、近畿圏において教員養成を行う主な大学にヒアリングを行っている。ただし、外部に向けた説明会やパンフレット配布等による改組後の本研究科に関するPR活動については、改組申請後に行うこととしている。</p> <p>PR活動にあたっては、今後の教育現場において、修士レベルの高い実践力をつけた教員が必要であるという教育委員会と大学からのメッセージを学部生に伝えることにより、近隣地域における教員の需要が今後ますます減少していく中において、一層進学希望者が増えるかとみている。さらに、学部と教職大学院の一体化を推進することにより、本学学部生の進学希望者数はこれまで以上の数が確保できると考えている。</p>	<p>ア 入学者選抜の概要(選抜方法、選抜体制等) ・平成31年度連合教職実践研究科学生募集要項 (添付資料⑬参照)</p> <p>イ アドミッション・ポリシー 平成31年度連合教職実践研究科学生募集要項 (添付資料⑬P2参照)</p> <p>ウ 現職教員受入れのための具体的方策 各教育委員会からの現職教員派遣枠からの受入れについては、計画どおりに概ね確保できている。自主的に受験をする現職教員の受験生が想定より伸びず、スクールリーダーシップコース及び援助ニーズ教育実践コースの入学者は定員目安の数に若干届かなかった。 今後、短期履修制度の整備、現職研修プログラムと連動した教職大学院科目(既修得科目認定)の設定及び授業料免除枠の拡大、土日・夏季集中開講の促進を行う。</p> <p>エ 学部新卒者受入れのための具体的方策 連合構成大学(大阪教育大学、関西大学、近畿大学)の推薦募集枠(各大学6枠)を設定し、平成31年度入試を行った結果、当該推薦枠から15名の学部新卒者が入学した。 外部に向けた説明会やパンフレット配布等によるPR活動にあたって、今後の教育現場において、修士レベルの高い実践力をつけた教員が必要であるという教育委員会と大学からのメッセージを学部生に伝えたことにより、教員採用試験に合格した複数の学部新卒者が採用猶予等の制度を利用して入学している。</p>

⑦ 取得できる免許状

認可（設置）時の計画	履行状況
<p>ア 取得できる免許状                      幼稚園教諭専修免許状, 小学校教諭専修免許状, 養護教諭専修免許状                      中学校教諭専修免許状(国語,社会,数学,理科,音楽,美術,保健体育,保健,技術,家庭,職業,職業指導,英語,フランス語,ドイツ語,中国語,宗教)                      高等学校教諭専修免許状(国語,地理歴史,公民,数学,理科,音楽,美術,工芸,書道,保健体育,保健,看護,家庭,情報,農業,工業,商業,水産,福祉,商船,職業指導,英語,フランス語,ドイツ語,中国語,宗教)</p> <p>卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで(入学時に有する一種免許状の免許種に応じ)取得可能</p>	<p>各コースにおいて出願に必要な教員免許状を有することを出願条件としている。                      入学後に取得できる免許状については、左記記載のとおり。</p> <p>・連合教職実践研究科 履修提要                      (添付資料③P17参照)</p>

⑧ 「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の特例を実施する場合

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 修業年限 記載なし</p> <p>イ 履修指導の方法 本教職大学院の授業方式に従って、入学前のオリエンテーション、入学後のオリエンテーションで、履修方法の指導を行う。</p> <p>ウ 授業の実施方法 記載なし</p> <p>エ 教員の負担の程度 記載なし</p> <p>オ 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、 必要な教員の配置 記載なし</p> <p>カ 入学者選抜の概要 記載なし</p>	<p>ア 修業年限 2年課程のみとする。ただし現職教員や指導主事の履修の便宜等に考慮して、「長期履修学生制度」(修業年限3年)の利用を可能とする。</p> <p>イ 履修指導の方法 本教職大学院の授業方式に従って、入学前のオリエンテーション、入学後のオリエンテーションで、履修方法の指導を行う。</p> <p>ウ 授業の実施方法 ・大学院連合教職実践研究科 履修提要別冊「時間割・学年暦」 (添付資料④P4-7参照) 昼夜間コースであるスクールリーダーシップコース及び援助ニーズ教育実践コースでは、現職教員が働きながら学べるよう、平日の授業時間を2コマ(18:00-19:30、19:40-21:10)のみ設定しているほか、土曜日開講授業、夏期休業等を利用した集中形式授業の開講等も実施し、院生の履修・負担に配慮している。</p> <p>エ 教員の負担の程度 ・連合教職大学院改組に伴う教員の属性の考え方について(19.1.16 説明会) (添付資料⑦担当イメージ参照) 専任教員の中には、教職大学院の教育以外の業務を受け持つ者もあり、授業科目や指導学生の担当を決める際には、そういった負担が考慮されるよう、教員の属性による業務分担を行っている。この運用の中で、複数キャンパス(昼間・昼夜間)をまたがる業務を担当する教員についても負担を考慮し業務分担となるよう配慮している。</p> <p>オ 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、 本教職大学院では、教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備を整備し、自主的学習環境も十分に整えられ、また、研究に必要な図書資料等が恒常的に整備され、有効に活用されている。天王寺キャンパスでは、授業期間中は21時30分まで附属図書館及び教職大学院協働学習室が利用できる。さらに、構成施設として、食堂は平日22時まで利用できる。</p> <p>カ 入学者選抜の概要 3-⑥入学者選抜の概要に記載のとおり、昼夜間コースにおいても同様の入学者選抜を実施している。</p>

⑨ 2以上の校地において教育研究を行う場合

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 専任教員の配置、教員の移動への配慮 記載なし</p> <p>イ 学生への配慮 記載なし</p>	<p>ア 専任教員の配置、教員の移動への配慮 ・連合教職大学院改組に伴う教員の属性の考え方について (添付資料⑦担当イメージ参照) 専任教員の中には、教職大学院の教育以外の業務を受け持つ者もあり、授業科目や指導学生の担当を決める際には、そういった負担が考慮されるよう、教員の属性による業務分担を行っている。この運用の中で、複数キャンパス(昼間・昼夜間)をまたがる業務を担当する教員についても負担を考慮し業務分担となるよう配慮している。</p> <p>イ 学生への配慮 学生は、自身が所属するコースが開講されるキャンパスの授業科目の履修のみ(学校実習科目を除く)で修了できる仕組みとなっている。なお、自身の興味や修業補完を理由として、異なるキャンパスで開講している学部授業あるいは教職大学院授業を一部履修することができる。</p>

大阪教育大学教職大学院

ウ 施設設備, 図書 記載なし	ウ 施設設備, 図書 本教職大学院では、教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備を整備し、自主的学習環境も十分に整えられ、また、研究に必要な図書資料等が恒常的に整備され、有効に活用されている。柏原キャンパス・天王寺キャンパスの両方に用意された協働学習室には、小中学校・高等学校の全教科の教科書を含め院生の実習や授業、課題研究等に必要な資料が充実しており、自由に閲覧できる環境が整備されている。
エ 開設科目名及び開設科目ごとにおける対象の学生数 記載なし	エ 開設科目名及び開設科目ごとにおける対象の学生数 研究科共通科目のうち必修科目を中心とする10科目については、天王寺キャンパス・柏原キャンパスの両方で、同一名称で開講している。必修科目の対象学生数は、天王寺キャンパスでは(入学定員ベースで)60人、柏原キャンパスでは90人となるため、それぞれ2クラスずつ開講している。

⑩ 現職教員を対象とした教育の一部を本校以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
ア 開講科目  イ 教育研究環境, 施設設備, 図書	
ウ 教員の移動	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">                     該当なし                 </div>
エ 受入れ学生数	

⑪ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>ア 実施場所, 実施方法, 学則における規定等</p>	
<p>イ 開設科目名</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">該当なし</div>
<p>ウ 開設科目ごとにおける対象の学生数</p>	

⑫ 管理運営の考え方

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>ア 教授会 記載なし</p> <p>① 構成員 ② 開催状況 ③ 審議事項等</p> <p>イ その他の組織体制 記載なし</p> <p>① 構成員 ② 開催状況 ③ 審議事項等</p>	<p>ア 教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合教職実践研究科委員会規程 (添付資料⑮参照)</li> <li>① 構成員:連合教職実践研究科長並びに連合教職実践研究科担当の専任教員及び兼任教員</li> <li>② 開催状況:年3~4回</li> <li>③ 1 教学に関する事項, 2 中期計画及び年度計画に関する事項のうち教育研究に関する事項 3 その他連合教職実践研究科に関する事項</li> </ul> <p>イ その他の組織体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合教職実践研究科委員会規程 (添付資料⑮参照)</li> <li>・連合教職実践研究科運営委員会設置に関する細則 (添付資料⑯参照)</li> </ul> <p>本教職大学院の日常的・基本的な事項に関しては、研究科主任を含む12人の専任教員により組織される「大阪教育大学大学院連合教職実践研究科運営委員会」が、「大阪教育大学大学院連合教職実践研究科運営委員会設置に関する細則」第2条の範囲において、研究科委員会より審議の委任を受け、これを行っている。年間15回程度の開催である。</p>

⑬ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>ア 大学全体のFDの取組</p> <p>教員の資質向上のために実施される本学のFDは、「大阪教育大学SD・FD事業の全学的方針」に基づいた取組みを行っている。全学的方針の項目の一つとして、「教員養成大学の教職員に必要な職能開発を意図するもの。特に、実践研究と学問探究の両方に軸足を置く教員、並びに教員養成にかかる諸制度や政策を把握しつつ本学の強み・役割を活かし改革に繋げることのできる職員を育成する事業を推奨する。」としており、全学をあげて教科専門と教科教育を一体化させていくこととした。FD組織は、ファカルティ・ディベロップメント事業推進委員会によって実施される全学FDと、各局部で実施される局部FDから構成されている。</p> <p>イ 教職大学院独自のFDの取組</p> <p>本教職大学院は、その構成員が全学FDに参画するとともに、修士課程から教職大学院へ移行した教員の継続的な力量向上を重視し、本教職大学院独自のFDも定期的かつ計画的に企画・実施する。その代表的なものとして、例えば、カリキュラム・ポリシーに基づいた授業の実現を点検するために、授業研究を実施する(授業を他の教員等が観察し、それをアクティブ・ラーニングの計画・実施を視点として批評するカンファレンス)。また、カリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスの内容を相互に点検する。さらには、院生の授業評価結果に基づく授業改善に関する意見交換会、学校実習の指導についての事例検討会を行う。これらに加えて、教員養成の新たな潮流である、教員の資質・能力に関する育成指標の内容や作成過程に関する報告会を開催する。</p> <p>ウ 教職大学院専任教員の研究の質の向上に向けた取組</p> <p>本教職大学院の授業科目では、教員の相互授業公開を恒常的に実施するとともに、複数の教員が参加するリフレクション・ミーティングを定期的に行うことにより、教員相互の学び合いを促進することで教員の継続的な資質の向上を図る。</p> <p>授業改善につながる取組としては、院生による授業評価を実施し、「学生による授業評価集計結果について(https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/kyomu/fd.html)」のウェブページで公開し、授業改善につながる取組みを行う。</p>	<p>ア 大学全体のFDの取組</p> <p>左記記載のとおり、順調に履行している。</p> <p>イ 教職大学院独自のFDの取組</p> <p>左記記載のとおり、順調に履行している。</p> <p>教職大学院においては、運営委員会のもとにFD委員会を設置しているが、平成31年4月改組後のFD事業の開催実績はまだ無い。</p> <p>ウ 教職大学院専任教員の研究の質の向上に向けた取組</p> <p>本教職大学院の授業科目は学内外の教職員に向けて恒常的に公開している。また、複数の教員が参加するリフレクション・ミーティングもコースごとに年間2回ずつ計画している。</p> <p>授業評価については、平成31年4月改組後は、未だ実施していないが前期終了時及び後期終了時に実施することとしている。</p>

⑭ 連携協力校等との連携

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>記載なし</p> <p>ア 連携協力する学校名と具体的な連携内容</p> <p>イ 連携協力校以外の関係機関(民間企業, 関係行政機関, 教育センター等)の名称と具体的な連携内容</p> <p>ウ 大学・学部が附属学校を設置している場合の活用方法</p>	<p>ア 連携協力する学校名と具体的な連携内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度連携協力校一覧 (添付資料⑭参照)</li> <li>学校実習における実習生の受入。</li> </ul> <p>イ 連携協力校以外の関係機関(民間企業, 関係行政機関, 教育センター等)の名称と具体的な連携内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府立高校教職コンソーシアム</li> <li>学校実習における実習受入校の確保や、現職教員の受験生確保に関わって連携協力している。</li> <li>・大阪市教育委員会</li> <li>連合教職実践研究科に大阪市教員養成協働研究講座を設置し、教員養成・研修に係る共同研究を行っている。</li> </ul> <p>ウ 大学・学部が附属学校を設置している場合の活用方法</p> <p>附属学校園から、みなし実務家教員として8名の教員を配置している。実務家教員として授業において実践的な学びを院生に提供しているほか、附属学校園を学校実習のフィールドとしている院生の指導を、研究者教員らと協働して行っている。</p>

⑮ 実習の具体的計画

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>記載なし</p> <p>ア 実習計画の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習目標</li> <li>・実習単位</li> <li>・具体的な実習内容, 教育上の効果</li> <li>・実習施設に求める要件</li> <li>・実習期間・時間</li> <li>・学生の配置人数等</li> <li>・問題対応, きめ細やかな指導を行うための実習委員会の設置等</li> <li>・学生へのオリエンテーションの内容, 方法</li> </ul> <p>記載なし</p> <p>イ 実習指導体制と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回指導計画</li> <li>・実習担当教員ごとに勤務モデル等</li> <li>・実習計画全体が掌握できる年間スケジュール</li> <li>・各班のスケジュール表</li> <li>・各段階における学生へのフィードバック, アドバイスの方法等</li> <li>・学生の実習中, 実習終了後のレポート作成・提出等</li> </ul>	<p>ア 実習計画の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合教職大学院実習の手引き (添付資料④及び⑤参照)</li> </ul> <p>学校実習は、院生自身が学修計画書に基づき、研究テーマや目的、内容・方法を明確にして計画する実習であり、大学院と実習校の往還、理論と実践の往還を実感すると同時に、実践的な課題解決能力を育成することをめざしている。</p> <p>学校実習科目は、すべて必修科目で「基本学校実習Ⅰ・Ⅱ(各2単位)」と「発展課題実習Ⅰ・Ⅱ(各3単位)」の計4科目10単位の修得が必要。</p> <p>実習内容や効果は、コースにより異なるが、例えば生徒指導、カリキュラム開発、特別なニーズをもつ子どもの支援等、自身のもつ実践研究テーマと実習校のもつ課題をすり合わせながら、その課題を解決するために問題解決型の実習を行い、実習校の課題解決に寄与することをめざす。</p> <p>よって、実習施設に求める要件は、実習生の2年間の受入れである。実習候補校となる学校には、それぞれの学校のもつ特色・取組み・課題テーマ、実習生受入れ条件、教科、受入れ可能人数等を聞き取りのうえ、院生の実践研究テーマや実習希望条件とマッチングし、実習校1校あたり1学年1～3名の実習生を配当している。</p> <p>学校実習に係る運用については、運営委員会のもとに設置された「学務委員会実習部会」が主な企画・運営組織として機能しており、院生へのオリエンテーションも実施している。また、実習におけるトラブルや院生相談の対応や、実習候補校の拡充のため、教育委員会・学校連携コーディネータを2名配置し、実習部会や院生の指導教員と連携したサポート体制を整備している。</p> <p>イ 実習指導体制と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連合教職大学院改組に伴う教員の属性の考え方について(19.1.16 説明会)</li> <li>(添付資料⑦担当イメージ参照)</li> </ul> <p>指導教員は実習期間・前後に3回程度実習校を訪問する。主指導教員が難しい場合は副指導教員が対応する。</p> <p>実習日として設定している第2・3タームの火曜日及び金曜日については、専任教員においては授業を入れないよう周知徹底している。これにより、実習校訪問や、実習トラブルに対応できるようにしている。</p> <p>教育委員会・学校連携コーディネータを2名配置し、実習トラブルの対応のほか、実習の全体の動きを把握し円滑にまわすモデレーターの役割を担うこととしている。</p> <p>学生には、個別RM(リフレクション・ミーティング)により、日常的に指導教員や実習校教員と実習や実践課題テーマに関する振り返りを促すほか、半期に一度、コースRMを開催し、コース間の学生・教員、あるいは学校現場関係者の前で発表し意見交換やアドバイスを受けられる場を設定している。</p>

## 大阪教育大学教職大学院

### ウ 施設との連携体制と方法

- ・施設との連携の具体的方法, 内容
- ・相互の指導者の連絡会議設置の予定等
- ・大学と実習施設との緊急連絡体制
- ・各施設での指導者の配置状況
- ・実習前, 実習中, 実習後等における施設との調整・連絡等

### エ 単位認定等評価方法

- ・各施設での学生の評価方法
- ・各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携
- ・大学における単位認定方法

### ウ 施設との連携体制と方法

- ・2019年度教職大学院学校実習案内(中学校・高校) (添付資料⑩参照)

実習校へは, 学校実習案内を配布し, また実習前の事前訪問により, 「指導体制」, 「実習にあたってお願いしたいこと」, 「事故・保健等」, 「連絡先」等について確認を行っている。また, 相互の指導者の連絡については, 実習期間中及び実習期間前後に指導教員が複数回学校を訪問する機会を主として密に連絡をとれる体制としている。

### エ 単位認定等評価方法

- ・平成31年度学校実習の評価について (添付資料⑩参照)

実習校指導責任者による, 実習の活動状況, 実習の成果等についての報告を踏まえて, 大学院指導教員が実習前の実習計画書, 実習報告書, 発表の評価を総合的に行う。指導教員の評価をコースごとに集約・確認し, 運営委員会での審議・了承を経て単位を認定する。

## 4 教育委員会等との調整内容の履行状況

認可(設置)時の計画	履行状況
記載なし	
<p>ア 養成する人材像について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象とする学生層(現職教員学生と学部新卒者)と規模</li> <li>・教育委員会から推薦を受ける現職教員の派遣要件</li> </ul>	<p>ア 養成する人材像について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現職教員(定員目安45人)と学部新卒者(定員目安105人)</li> </ul> <p>関係教育委員会との覚書により教育委員会からの推薦による現職院生の派遣を制度化し、毎年度個別に推薦数等を協議し、現職院生を一定程度確保している。</p> <p>教育委員会からの推薦にあたっては、例えば大阪市教育委員会の場合は「大阪市教育委員会と研究科の協働事業に係る教育課題に取組む現職教員」など、要件を限定的に実施するものもある。</p>
<p>イ 教育課程・教育方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的指導力を育成する体系的で効果的なカリキュラム編成</li> <li>・実践的で新しい教育方法の開発・導入の方策</li> <li>・デマンド・サイドの意見・ニーズが反映される教育課程等の改善のシステム</li> </ul>	<p>イ 教育課程・教育方法について</p> <p>本学の教職大学院教授等がそれぞれ参加する、大阪府・大阪市・堺市の教員育成協議会において策定された各教員育成指標について、本学の教職大学院の教育課程との対応表を作成し、連携会議等で確認することにより、最新の社会ニーズに即した実践的指導力を育成する体系的なカリキュラムを編成・整備している。</p> <p>改組計画時からの目的を実現させるため、領域(教科含む)横断的視野を育成できるカリキュラム編成及び履修指導を行っており、これは本学教職大学院ならではの新しい教育方法といえる。</p> <p>教育課程の見直しについては、大阪教育大学連合教職実践研究科連携会議において、その妥当性と、最新の社会ニーズや教育課題に対応させた教育課程改編(改組計画)について審議・確認している。</p>
<p>ウ 履修形態について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現職教員学生が職務に従事しながら履修する場合における昼夜開講制等の配慮・工夫の方策</li> </ul>	<p>ウ 履修形態について</p> <p>現職教員対象のコースを開設している天王寺キャンパスは、交通至便な天王寺駅から徒歩約10分の場所に位置し、約1時間の移動時間で大阪市内の多くをカバーできる立地条件である。また、現職院生は、勤めながら(現任教等)の学校実習も可能としており、大学での講義開始時間(平日は基本的に18時)と併せて、学びやすい環境となっている。また、課題提出等は主にデータで対応している。</p>
<p>エ 教員組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理論と実践の融合が担保される教員組織の全体構成</li> <li>・実務家教員に求める教職経験の内容、資質等</li> <li>・都道府県等の教育センターの専門的職員の活用・協力</li> <li>・実務家教員の質確保にかかる継続的な採用の方策</li> </ul>	<p>エ 教員組織について</p> <p>学長のリーダーシップによる教員配置を進めるほか、理論と実践の往還・融合を図る教育課程をより充実したものとするため、研究者教員については、全員が教育実践研究を行っている者を配置している。審査の中では、特に、実践報告や、学校等での教職経験(教育委員会等も含む。)若しくは学校等との協働による教育実践又は実践研究の経験を求めることとしている。また、確保が難しい実務家教員については、多様な採用等の方法を探り入れている。例えば、連合参加大学から実務家教員2人の出向を受けるとともに、本学の附属学校から計8人をみなし専任教員として教職大学院の教育に参画させ、学校現場での経験が豊かな実務家教員を確保している。さらに、教育委員会との人事交流による任期付大学教員3人を教職教育研究センターに所属させ、この教員をみなし専任教員として教職大学院の教育に参画させるとともに、大阪市教育委員会との連携による大阪市教員養成協働研究講座を設置し、4人の実務家教員を専任教員として採用している。このようにして、実務の最新の動向を熟知している実務家教員を参画させ教育課程に反映させるほか、新たな連携協力校の確保や教員研修の企画運営等実践現場との関係の強化に努めている。なお、多様な雇用形態を活用して実務家教員を確保する以外にも、実務家教員の積極的な参画を促すため年俸制等を活用し、教育効果等を高める工夫を行っている。</p>
<p>オ 連携協力校の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携協力校設定の考え方</li> <li>・具体的な連携協力内容</li> <li>・毎年度継続して連携協力校等を確保できる方策</li> </ul>	<p>オ 連携協力校の在り方について</p> <p>本学では、学校実習生を受け入れることで、実習生のもつ実践課題テーマと、学校の抱える課題テーマについて、2年間を通して教職大学院とともに共同研究を行うこととなる実習校を、連携協力校として位置付けている。</p> <p>院生の希望実習校種・教科、教員採用試験の受験予定先、利用予定の自宅最寄り駅等を調査し、学修計画書記載のテーマ等も踏まえながら、連携協力校候補の学校課題や受入条件等とを照合し組み合わせる。そのために必要十分な連携協力候補校を確保するため、大阪府・大阪市・堺市教育委員会に協力を依頼している。</p> <p>この点に関連して、3教育委員会とは、覚書により、各教育委員会の意向を踏まえ教育課程を編成実施するものとし、その中で学校実習も連携体制の中で実施できるよう位置付けている。</p>
<p>カ 実習の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置の趣旨、特色、教育課程等を踏まえた、実習校の学校種、規模、立地条件に応じた実習先の考え方</li> <li>・学生層(現職教員・学部新卒者)に応じた実習校の学校種、実習内容、実施年次の考え方</li> </ul>	<p>カ 実習の在り方について</p> <p>本教職大学院の実習(以下、「学校実習」という)は、院生が自らの学修計画書に基づいて研究テーマや目的、内容・方法を明確に計画・実施し、学校等の現場における実践を省察することで、理論と実践の往還を実感すると同時に、実践的な課題解決能力を育成することを共通の目的としている。</p> <p>学校実習科目は、全て必修科目として位置づけられており、下のとおり、「基本学校実習Ⅰ・Ⅱ」、「発展課題実習Ⅰ・Ⅱ」が2年間にわたり順に配置されている。</p> <p>現職院生は、原則として勤務校を実習校とし、日常の勤務を継続しながら教職大学院での学修を継続している。</p>

キ 教職大学院の管理運営体制

- ・恒常的に教育委員会等デマンド・サイドと密接に連携する方策
- ・学校教育の実態や社会の変化等に柔軟に対応しうる機動的な管理運営システムの確立

ク その他

- ・FD活動への教育委員会等の協力内容
- ・自己点検の評価等への取組

キ 教職大学院の管理運営体制

- ・連合教職実践研究科連携会議設置要項(添付資料⑳参照)

連合構成大学及び連携教育委員会との関係における管理運営においては、その重要事項を審議する会議として「大阪教育大学大学院連合教職実践研究科連携会議」が設置されている。概ね年に一度開催されている同会議は、大阪教育大学大学院連合教職実践研究科連携会議設置要項第2条記載のとおり、連携構成大学の教員養成、連携教育委員会の採用・研修に関わる主要な役職者で構成され、本研究科の教育課程、実習、入試等に関わる現状と課題の共有、意見交換が行われている。

このほか、より大きな枠組みとして構成される、大阪府・大阪市・堺市・豊能地区教育委員会と大阪教育大学との合同拡大連携協議会においても、研究科長を兼任する学長のほか、研究科主任もその構成員として出席し、本教職大学院に係る現状・課題の共有が図られている。

ク その他

平成30年度の教職大学院FD事業においては、教育委員会関係者や現職教員院生が参加・協力し実施したものがある。(添付資料㉑参照)平成31年4月改組以降のFD活動の実績はまだ無い。

自己点検・評価については、毎年、自己点検・評価報告書を作成し、教職員共通ポータルサイト及び大学ホームページ上に掲載することとしている。また、教職大学院の内部質保証体制を再整備するため、「大阪教育大学大学院連合教職実践研究科における自己点検・評価等の実施方針」を平成31年4月に改正した。(添付資料㉒参照)